

笠島地区商圈調査結果（デスクトップ調査）

2026年3月

目次

1. 調査概要	3
■1.1 調査目的	3
■1.2 調査対象地域	3
■1.3 調査範囲・内容	3
■1.4 調査方法	3
■1.5 調査期間	3
2. 商圈の基本定義と基礎分析	4
■2.1 商圈の範囲設定	4
■2.2 位置・気候	6
■2.3 人口・世帯構成	8
■2.4 産業・就業構造	8
■2.5 商業集積・施設分布	9
■2.6 消費・生活行動特性	9
3. 観光動向と競合分析	12
■3.1 観光動向の現状	12
■3.2 来訪目的・動向	17
■3.3 競合観光地等の比較	19
■3.4 観光需要の課題と示唆	21
4. 地域資源等の整理	22
■4.3 芸術	33
■4.4 特産品・食文化・地場産業	35
■4.5 地域行事・イベント等	37
5. 受入環境・回遊性の状況	38
■5.1 施設整備状況	38
■5.2 アクセス・交通インフラ	51
■5.3 情報発信・プロモーション	54
■5.4 受入体制・回遊性の課題整理	55
6. 持続可能性・地域活性化に向けた取組	56
■6.1 持続可能性・地域活性化に向けた取組	56
7. 総括・今後の方向性	58
■7.1 現状分析のまとめ	58
■7.2 今後の活用可能性に係る示唆	59

1. 調査概要

■1.1 調査目的

昭和 60 年に国の「重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）」に選定された本島町笠島地域は、現在行政主導のもと建造物等の保存が行われているが、財源の維持確保等の観点から、丸亀市及び民間企業が一体となり、建造物群の保存・活用を目指す必要がある。

地域一体となり重要伝統的建造物群の保存・活用に関する方針等を検討するにあたり、地域の特性や資源、基礎情報等を調査・分析し、現状を的確に把握する必要がある。

上記のような背景を踏まえ、本調査により本島町笠島地域における基礎的な情報を調査・分析を行う。

■1.2 調査対象地域

本島町笠島地域を調査主対象地域とし、その商圈範囲の地域及び、競合となる地域についての情報も収集し、分析等を行う。

■1.3 調査範囲・内容

「商圈の基本定義と基礎分析」「観光需要と競合分析」「地域資源・観光資産の調査」「回遊性・受入環境の現況」について調査を行う。

■1.4 調査方法

丸亀市の公表情報や各種統計データ、その他情報等を、インターネットを用いた情報収集等により、調査を実施。

■1.5 調査期間

令和 7 年 11 月 4 日から令和 8 年 3 月 31 日までを調査期間とする。

2. 商圏の基本定義と基礎分析

■2.1 商圏の範囲設定

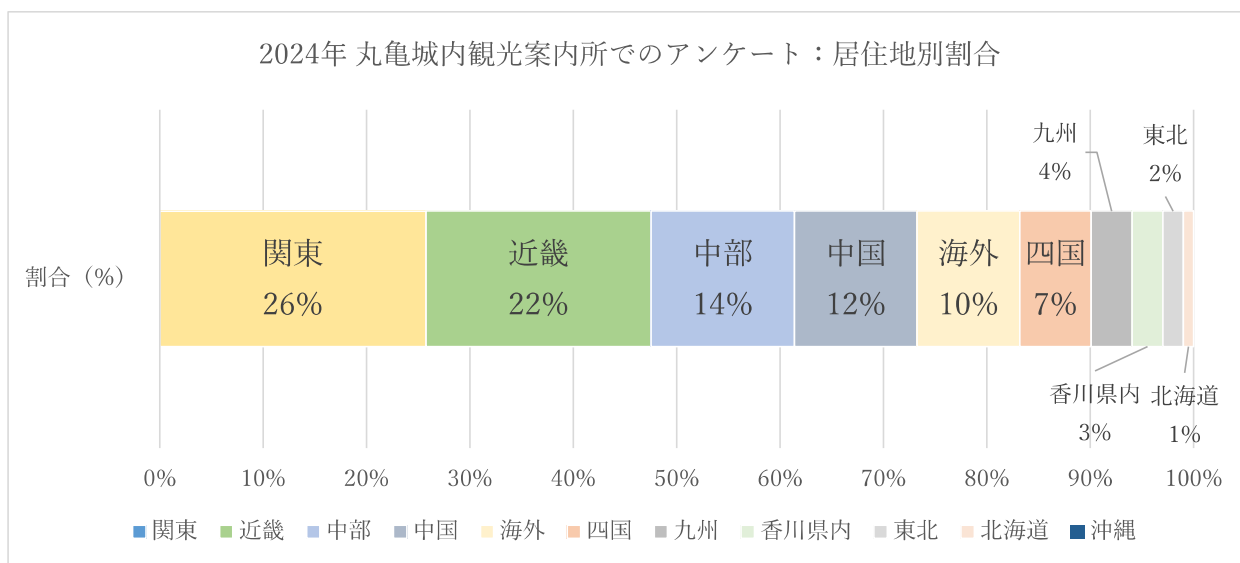
(1) 商圏の設定方法

本島は離島であり、来訪には丸亀港等からの船舶移動が前提となるため、一般的な陸上観光地とは異なる移動手段が発生する。これを踏まえて、本調査では以下のような観点を勘案し、本島町笠島地域に来訪する可能性がある者の居住地域を、来訪者の移動時間・行動特性に基づく段階的商圏として設定する。

- ✓ 移動手段（フェリー）と目的地までの所要時間が来訪可能性を大きく左右する
- ✓ 日帰りと宿泊で来訪圏が明確に分かれる

(2) 商圏の範囲設定

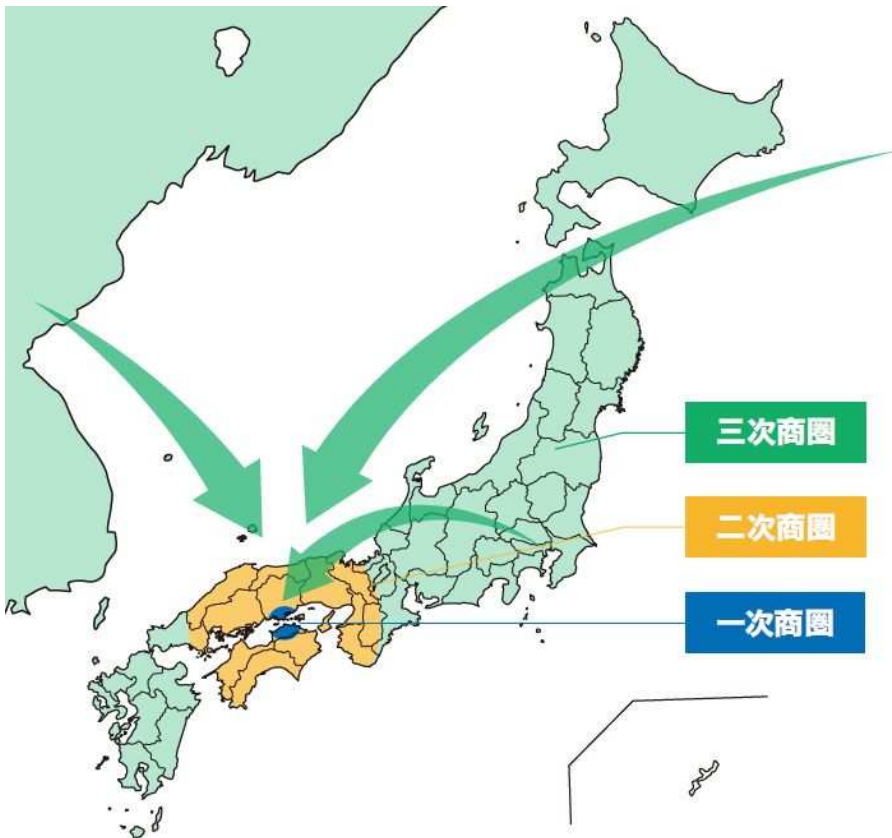
丸亀城内の観光案内所で行ったアンケート¹によれば、来訪者の約半数は関東・近畿地方からの来訪。関東・近畿・中部・中国地方からの来訪者が74%、海外からのインバウンドを含めると84%を占め、遠方からの来訪割合は多い結果となった。但し、上記アンケートは丸亀城内の「観光案内所」での調査結果であり、丸亀市内や近隣地域の来訪者がアンケートの対象になっていない可能性にも留意する必要がある。



商圏のうち、地元及び日帰りで来訪可能な地域を一次商圏とし、来訪には宿泊を伴う可能性が高い地域を二次商圏、来訪には宿泊を伴う可能性が高く、かつ二次商圏よりも遠方にある商圏を三次商圏とする。

¹ 出典：まるがめ DMO 丸亀市観光動向調査 R6 年

商圏	定義	エリア	移動方法	来訪特性
一次商圏	[近隣・日帰り観光圏] フェリーを利用し、日帰りでの来訪が可能な商圏	丸亀市近隣市（坂出市・善通寺市） 高松市 その他香川県内 及び岡山県南部	自宅→丸亀港/児島観光港→本島まで概ね1.5~2時間以内 自家用車+フェリー、JR・琴電等・バス+フェリー	日帰り観光が中心 歴史・文化散策、イベント参加、景観鑑賞 滞在時間は短く、消費単価は比較的低い。 ファミリー層、シニア層、県内在住者が多い
二次商圏	[広域・宿泊観光圏] 本島への来訪に宿泊が伴うことを前提とする広域観光圏	中国・四国地方（岡山県、広島県、愛媛県など） 関西圏（大阪府、兵庫県、京都府）	所要時間は概ね3~5時間程度 新幹線・高速道路・空港+フェリー	瀬戸内海観光の一環として来訪 直島・豊島・小豆島等との周遊型観光 滞在時間が長く、体験・食・宿泊消費が期待できる 観光目的が明確で情報感度の高い層
三次商圏	[インバウンド・長距離観光圏] 訪日外国人旅行者や、国内遠隔地からの来訪者による特目的型観光	訪日外国人（欧米、アジア圏） 首都圏など国内遠隔地	所要時間は概ね5時間以上 新幹線・高速道路・空港+フェリー	瀬戸内国際芸術祭や日本の伝統的集落への関心が高い 滞在は短期だが、文化体験・景観価値への評価が高い 情報発信・多言語対応の影響を強く受ける。



■2.2 位置・気候

本島は瀬戸内海のほぼ中央、丸亀港から北へ約11kmの位置にある、周囲約16.4km・面積6.74km²の離島である。塩飽諸島28島の中心的存在として、古来より瀬戸内海航路の要衝を担ってきた。

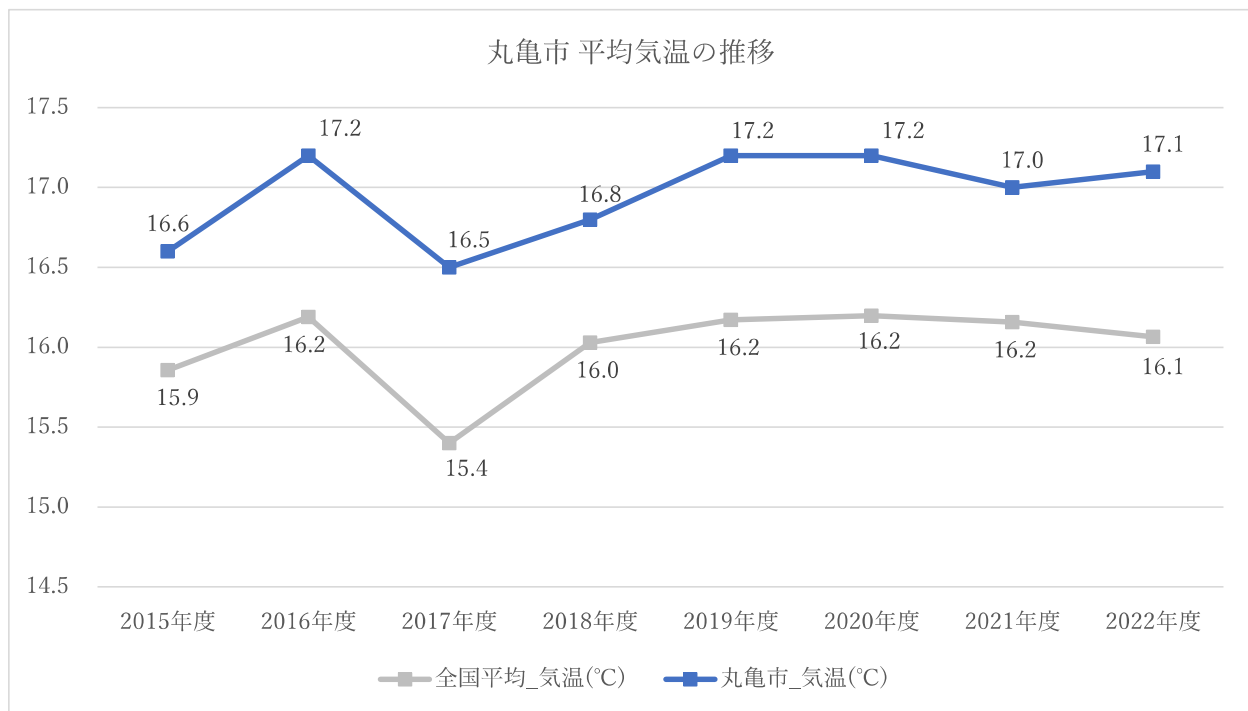
[地勢的特徴]

遠見山(標高110m)から、瀬戸内海の多島美と瀬戸大橋を一望できる。島の地形は南北に緩やかな起伏を持ち、北東部の笠島地区と南西部の泊地区という二つの集落が、それぞれ静かな入江に面して形成されている。

海岸線は複雑に入り組み、泊海水浴場、屋釜海水浴場、新在家海岸、園の洲など、多様な表情を持つ海辺が点在する。

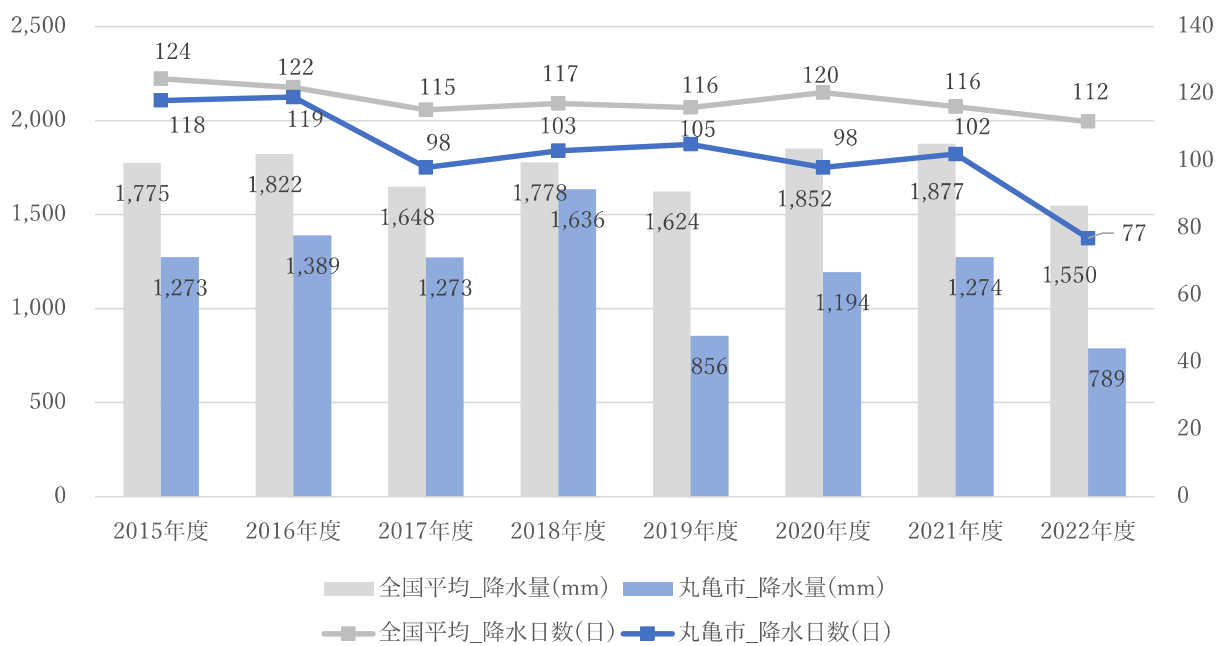
[気候的特徴]

瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて温暖で降水量が少ないのが特徴。丸亀市の年間平均気温は約17℃前後、年間降水量は約1,000～1,400mmであり²、本島地区も1年を通して気候温暖。観光に適した穏やかな気候に恵まれている。ただし、島嶼部であることから台風の時期の雨・風・高潮等には注意を要する。



² 出典：e-Stat 都道府県データ 基礎データ

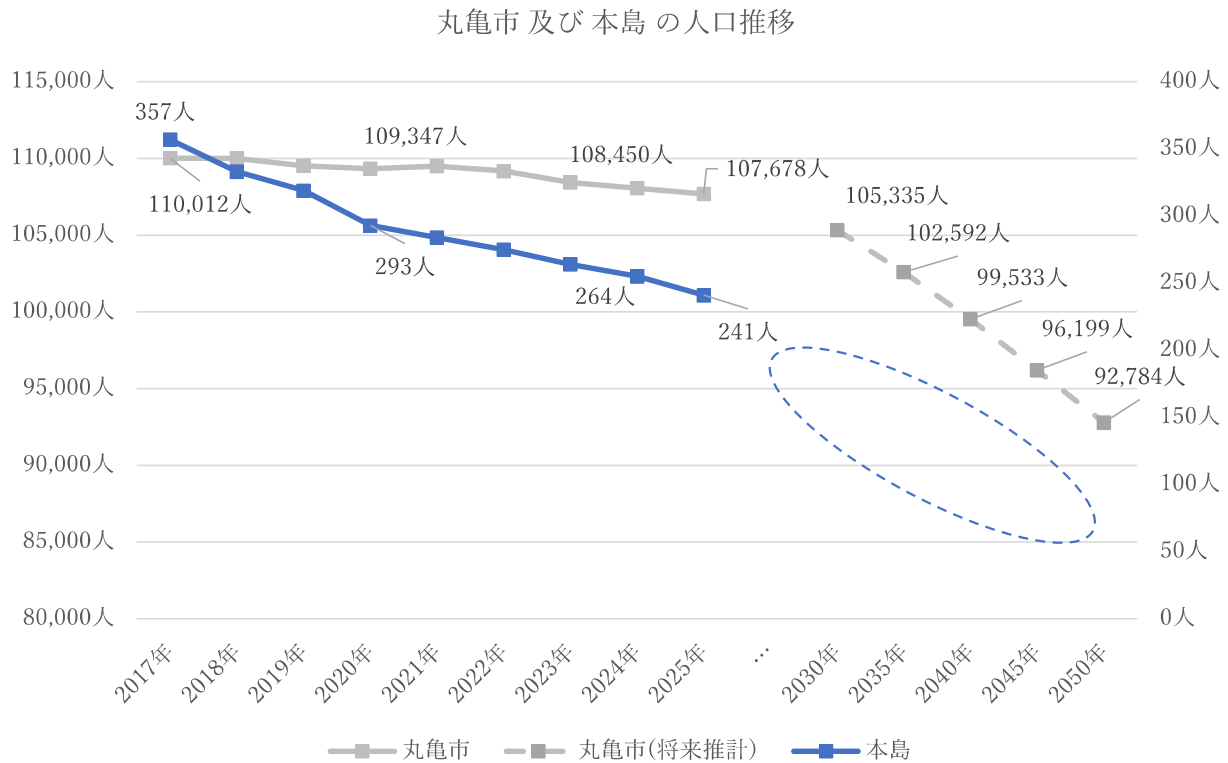
丸亀市 降水日数と降水量の推移



■2.3 人口・世帯構成

本島の人口は年々減少しており、現在の常住人口は 240 名ほど³。

また、全国的な人口動態と同様、丸亀市の将来人口は減少が予想され⁴、本島においても今後ますます人口が減少していく可能性がある。



■2.4 産業・就業構造

令和 6 年版丸亀市統計書⁵によれば、本島に事業所を置く事業者数は以下の通り。

業種別で見ると、公務関連が最も多く、次いで宿泊業・飲食業、サービス業となっている。

但し、本調査は令和 3 年 6 月 1 日時点の調査によるもので、直近での事業所数とは異なる部分もあり、特に飲食店等については後述の調査を参考にする必要がある。

³ 出典：丸亀市 人口・世帯数

⁴ 出典：国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口

⁵ 出典：丸亀市 丸亀市統計書 令和 6 年版

業種	事務所	従業者
建設業	2	14人
卸売業、小売業	2	3人
宿泊業、飲食サービス業	4	4人
複合サービス業	3	18人
サービス業（他に分類されないもの）	4	41人
公務（他に分類されないもの）	9	26人

■2.5 商業集積・施設分布

「2.4 産業・就業構造」と同様、直近の事業所数等との乖離に留意は必要であるものの、本島島内の事業所分布は以下の通り。

本島町泊の事業所数が最も多く、次いで本島町笠島となっている。本島全体に占める本島町泊の事業所割合は67%、本島町笠島が25%と、泊・笠島で本島全体の事業所の92%を占めており、この2つの地域が本島島内の主要商業地であると言える。

	総数		建設業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		複合サービス業		サービス業(左記以外)		公務(左記以外)	
	事務所	従業者	事務所	従業者	事務所	従業者	事務所	従業者	事務所	従業者	事務所	従業者	事務所	従業者
合計	24	106	2	14	2	3	4	4	3	18	4	41	9	26
本島町笠島	6	8	0	0	0	0	3	3	0	0	1	1	2	4
本島町泊	16	95	2	14	0	0	1	1	3	18	3	40	7	22
本島町甲生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本島町小阪	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
本島町大浦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本島町福田	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
本島町尻浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本島町生ノ浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■2.6 消費・生活行動特性

(1) 本島地域の消費動向

「2.4 産業・就業構造」や「2.5 商業集積・施設分布」で示したように、本島島内においては小売業、飲食業などの事業者が少なく、消費先が限られている。

本島島内にスーパーは存在せず、島民は週に1回丸亀市内から訪れる移動販売車、もしくは船を使って丸亀市本土に買い物に行く等により、食料品等を購入しているものと思われる。

瀬戸内海の離島で移動販売開始 大手コンビニとスーパーマーケット「便利がええわな」【香川・丸亀市】



2025年1月30日(木) 18:30

出典：Youtube の本島関連ニュースより抜粋

(2) 広域地域（商圏）の消費動向

旅行の目的別消費動向において⁶、旅行の目的を「観光・レクリエーション」「帰省・知人訪問等」「出張・業務」の分類で分けると、一般的には、「観光・レクリエーション」を目的とした旅行が最も消費額に影響する割合が大きい。

そのため、旅行による地域での消費を最大化しようと思うと、「観光・レクリエーション」を目的とした地域の体制を整備することが、最も地域での消費額に影響を与えやすい。

	宿泊旅行				観光・レクリエーション				帰省・知人訪問等				出張・業務			
	旅行回数(回/人)	旅行単価(円/人回)	平均泊数(泊/回)	消費額(円/年)	旅行回数(回/人)	旅行単価(円/人回)	平均泊数(泊/回)	消費額(円/年)	旅行回数(回/人)	旅行単価(円/人回)	平均泊数(泊/回)	消費額(円/年)	旅行回数(回/人)	旅行単価(円/人回)	平均泊数(泊/回)	消費額(円/年)
2024年 居住地別消費動向																
全国平均	2.36	69,362	2.23	164,006	1.42	77,768	1.68	110,049	0.60	48,918	3.37	29,126	0.35	70,146	2.46	24,818
北海道	2.62	66,373	2.79	173,612	1.49	73,309	1.89	109,399	0.76	55,294	4.77	41,752	0.37	60,987	2.39	22,455
東北	2.04	66,190	2.05	134,955	1.16	78,200	1.74	90,845	0.50	44,139	2.85	21,950	0.38	58,331	1.93	22,148
関東	2.63	71,070	2.28	186,857	1.58	76,929	1.67	121,656	0.66	52,931	3.43	34,834	0.39	77,935	2.81	30,363
北陸信越	2.01	63,189	1.77	127,174	1.31	71,731	1.60	93,781	0.43	38,142	2.42	16,306	0.28	61,476	1.60	17,060
中部	2.55	66,928	1.98	170,794	1.56	78,341	1.51	122,564	0.67	44,977	3.12	29,932	0.32	56,854	1.90	18,301
近畿	2.15	69,554	2.24	149,659	1.35	77,793	1.70	105,394	0.55	48,016	3.40	26,308	0.25	72,122	2.66	17,951
中国	2.15	66,594	2.28	142,897	1.20	78,290	1.76	94,073	0.58	43,516	3.31	25,139	0.37	64,624	2.37	23,672
四国	2.33	69,235	2.43	161,061	1.34	82,250	1.87	110,223	0.57	42,981	3.87	24,516	0.42	63,309	2.25	26,311
九州	2.07	72,065	2.23	149,261	1.13	83,746	1.77	94,373	0.50	45,627	3.16	22,818	0.44	72,196	2.34	32,077
沖縄	1.47	84,124	2.81	123,393	0.97	86,354	2.33	83,824	0.30	76,826	4.32	22,817	0.20	84,145	2.91	16,753

⁶ 出典：観光庁 消費動向調査

	日帰り旅行											
	観光・レクリエーション			帰省・知人訪問等			出張・業務					
	旅行回数 (回/人)	旅行単価 (円/人回)	消費額 (円/年)	旅行回数 (回/人)	旅行単価 (円/人回)	消費額 (円/年)	旅行回数 (回/人)	旅行単価 (円/人回)	消費額 (円/年)	旅行回数 (回/人)	旅行単価 (円/人回)	消費額 (円/年)
2024年 居住地別消費動向												
全国平均	1.99	19,533	38,886	1.44	19,990	28,830	0.29	19,253	5,524	0.26	17,326	4,532
北海道	1.90	15,890	30,239	1.27	17,714	22,552	0.31	16,064	4,922	0.32	8,556	2,769
東北	2.09	18,127	37,856	1.43	17,525	25,085	0.29	21,543	6,338	0.36	17,730	6,432
関東	2.22	20,274	44,990	1.64	20,451	33,536	0.30	19,466	5,892	0.28	20,102	5,560
北陸信越	1.81	18,941	34,260	1.27	19,837	25,231	0.27	15,128	4,009	0.27	18,457	5,024
中部	2.10	21,092	44,390	1.53	21,585	33,019	0.31	22,779	6,957	0.27	16,380	4,418
近畿	1.95	18,963	36,930	1.44	19,619	28,328	0.31	17,790	5,575	0.19	15,911	3,025
中国	1.89	18,408	34,765	1.31	19,405	25,405	0.24	19,591	4,698	0.34	13,730	4,661
四国	1.71	19,192	32,730	1.22	20,365	24,923	0.24	21,877	5,268	0.24	10,554	2,542
九州	1.50	18,373	27,552	1.06	18,746	19,957	0.23	17,168	3,925	0.21	17,785	3,673
沖縄	0.39	27,238	10,487	0.29	32,417	9,268	0.07	10,588	759	0.03	16,725	462

上記の観点で、「2.1 商圏の範囲設定」で定義した本島の一次～三次商圏の「観光・レクリエーション」の消費動向を抜粋したものが下記表。

本島が属する四国の消費単価を見ると、宿泊旅行単価は 82,250 円/回と商圏エリア内で最も高く、日帰り旅行単価も 20,365 円/回と中部・関東に次ぐ高さとなっている。

一方、年間の消費額を見ると、宿泊旅行・日帰り旅行ともに三次商圏エリア（関東・中部）の年間消費額の方が、二次商圏エリア（近畿・中国・四国）よりも高い傾向にある。

居住地が四国の方は、1 回あたりの旅行単価は高いものの、年間の旅行回数が他のエリアに比べ少ない傾向にあるため、年間旅行消費額は低くなっているものと考えられる。

宿泊旅行	旅行回数	旅行単価	平均泊数	消費額
	(回/人)	(円/人回)	(泊/回)	(円/年)
※本島の商圏エリアを消費額順に並び替え				
全国平均	1.42	77,768	1.68	110,049
中部：三次商圏	1.56	78,341	1.51	122,564
関東：三次商圏	1.58	76,929	1.67	121,656
四国：二次商圏	1.34	82,250	1.87	110,223
近畿：二次商圏	1.35	77,793	1.70	105,394
中国：二次商圏	1.20	78,290	1.76	94,073

日帰り旅行	旅行回数	旅行単価	消費額
	(回/人)	(円/人回)	(円/年)
※本島の商圏エリアを消費額順に並び替え			
全国平均	1.44	19,990	28,830
関東：三次商圏	1.64	20,451	33,536
中部：三次商圏	1.53	21,585	33,019
近畿：二次商圏	1.44	19,619	28,328
中国：二次商圏	1.31	19,405	25,405
四国：二次商圏	1.22	20,365	24,923

3. 観光動向と競合分析

■3.1 観光動向の現状

(1) 観光業界の動向

昨今、日本における訪日外国人は年々増加している⁷。世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によって2020年～2023年はインバウンドが停滞したものの、2024年には新型コロナウイルス感染拡大前の水準を超え、2025年には初の4,000万人を突破した（速報値）。

訪日外国人の増加に伴い、訪日外国人旅行消費額も増加しており、2024年には8.1兆円、2025年には9.5兆円に到達（速報値）。外貨を獲得できる産業としての存在感は年々高まっている。

訪日外国人を国別にみると、韓国がもっとも多く、次いで中国、台湾と上位にアジア諸国が続き、アジア諸国からの訪日外国人数は全体の約8割を占める。

一方、日本人の観光動向については、2024年の日本人の国内延べ旅行者数は5.4億人と、コロナ前の9割程度水準にとどまっている（2025年は通年の速報値が出ていないものの、4半期毎の速報値の累計では5.5億人程度の見込み）⁸。

日本人の国内旅行消費額については、宿泊料を始め、全般的な1人当たり旅行消費額が上がったこと等を受け、2024年は25.2兆円とコロナ前の水準を超えた（2025年は通年の速報値が出ていないものの、4半期毎の速報値の累計では26.8兆円程度の見込み）。

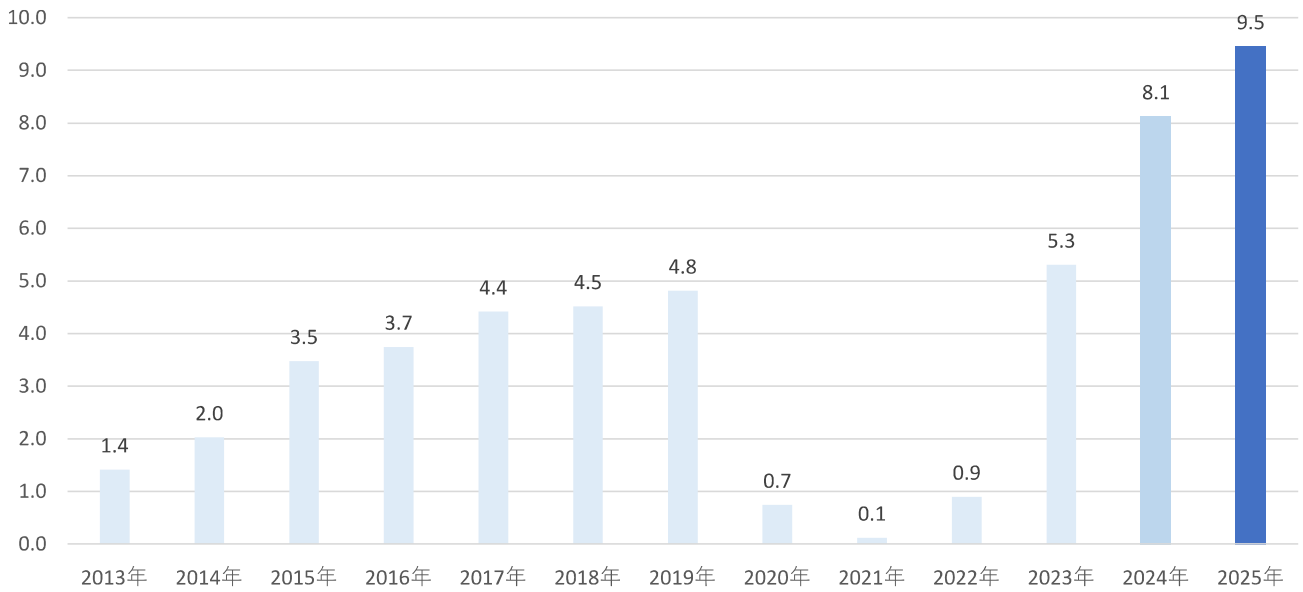
訪日外国人数 単位：万人



⁷ 出典：観光庁 インバウンド消費動向調査

⁸ 出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査

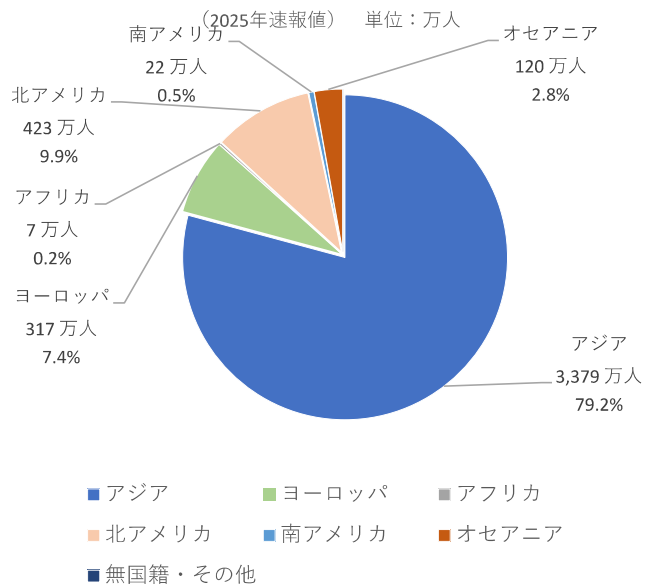
訪日外国人旅行消費額 単位：兆円



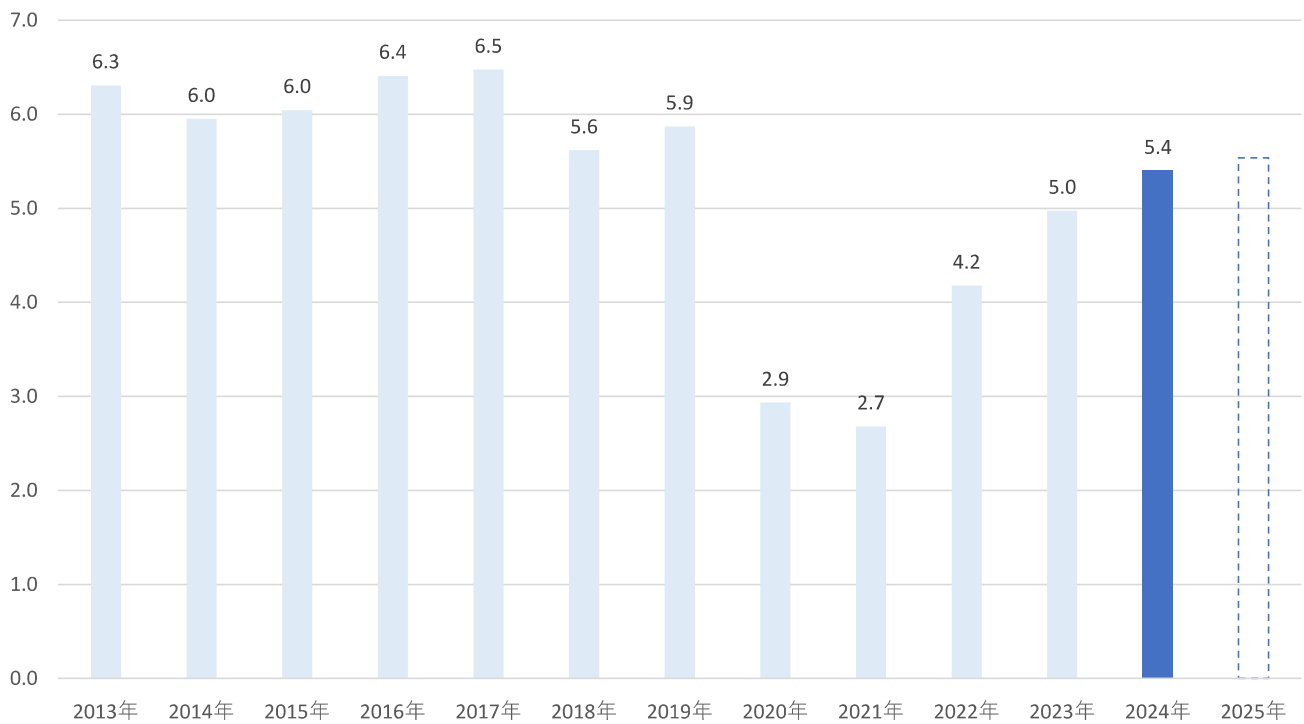
2025年国別訪日外国人数 上位15か国 単位：万人

順位	国名	訪日数	訪日総数比
1	韓国	946	22.2%
2	中国	910	21.3%
3	台湾	676	15.8%
4	米国	331	7.7%
5	香港	252	5.9%
6	タイ	123	2.9%
7	豪州	106	2.5%
8	フィリピン	89	2.1%
9	シンガポール	73	1.7%
10	カナダ	69	1.6%
11	ベトナム	68	1.6%
12	インドネシア	64	1.5%
13	マレーシア	64	1.5%
14	英国	54	1.3%
15	フランス	46	1.1%

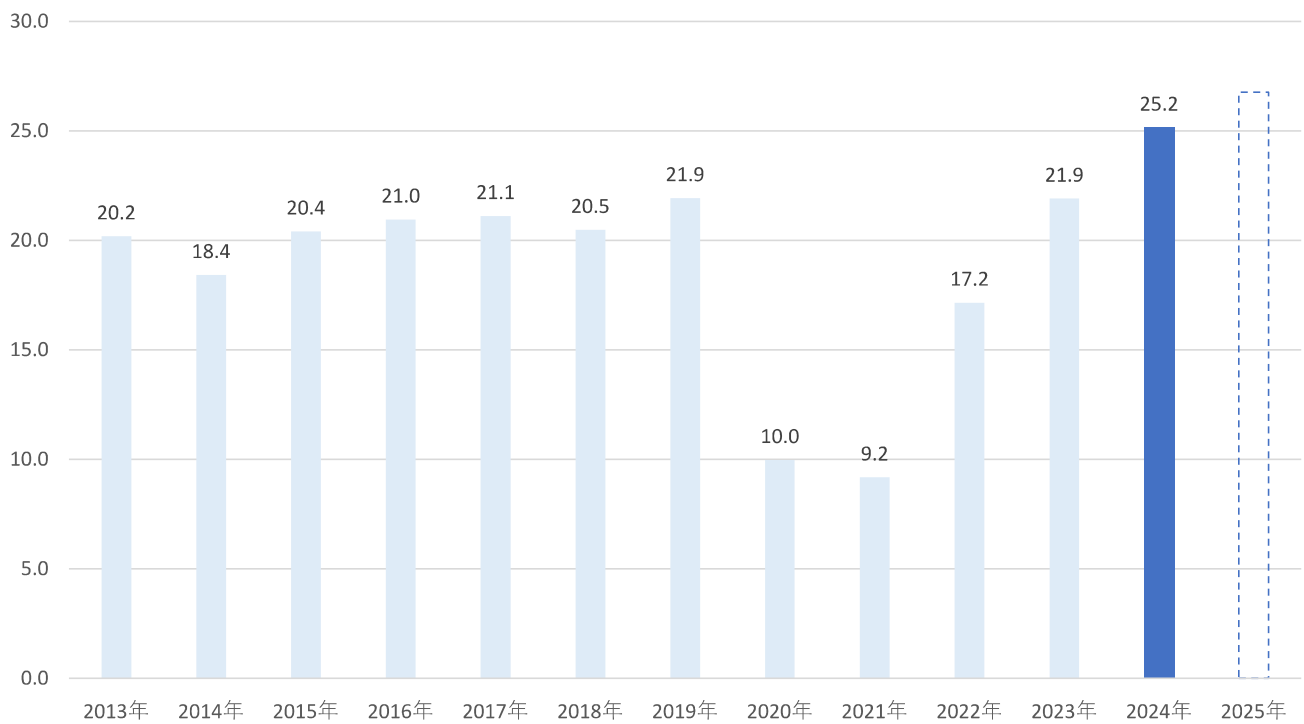
地域別 訪日外国人数



日本人国内旅行者数 単位：億人



日本人国内旅行消費額 単位：兆円

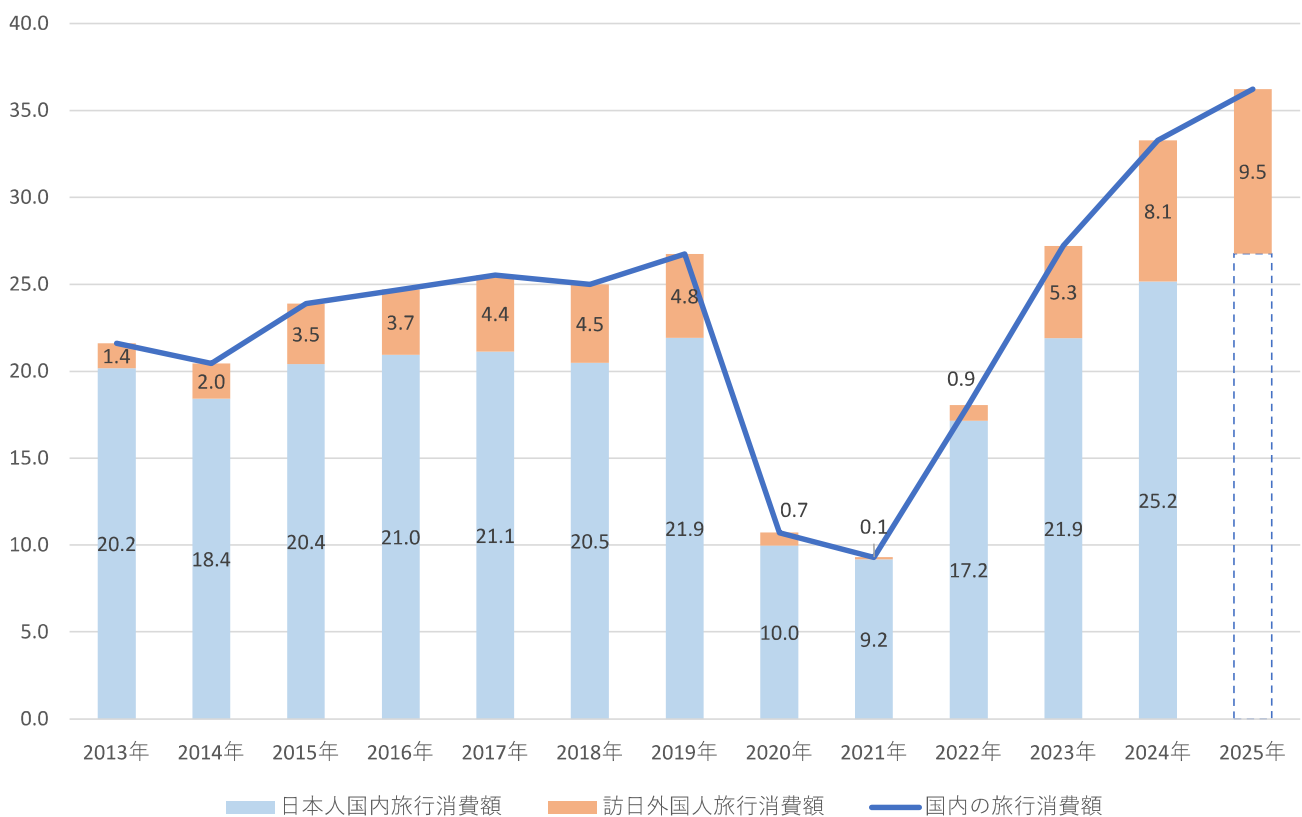


上記のように日本人の国内旅行者数は伸び悩んでいるものの、訪日外国人の旅行消費額と日本人の国内旅行消費額を合算した日本国内全体における旅行消費額をみると、依然として日本人の旅行消費額が国内全体に占める割合は大きい。

但し、近年の訪日外国人の旅行消費額の増加を受け、国内全体に占める訪日外国人の旅行消費額の影響は大きくなっており、人口減少社会において訪日外国人による旅行消費額の存在は大きくなっていくものと考えられる。

また、旅行者の観光を受け入れる側の地域の観点で観光をみた場合、地方の人口減少による受入体制面の課題や、“オーバーツーリズム”による地域住民の満足度低下などが指摘されており、「持続可能な観光地域づくり」が今後の大きな課題となっている。

日本国内における旅行消費額 単位：兆円



(2) 本島の観光動向

丸亀市の統計によると2024年の本島全体の入込数は約5.6万人程度であるが、これは本島に渡る航路の乗船客数を基に算出した数であり、かつ島民の利用も含まれたものであることを考慮する必要がある。

そのため、本島に渡る航路事業者に対する丸亀市からの補助額及び本島への乗船料等を参考に島民の利用数を概算で推定し、島民の利用を除いた本島の入込数を算出すると（下記表）、2024年には約3.9万人程度

となる。

但し、上記入込数にも“観光目的以外”の入込数は含まれていると考えられるため、留意が必要である。丸亀市の統計には、本島パークセンターや笠島まち並保存センター、塩飽勤番所等で測定した入込数があり、瀬戸内国際芸術祭の開催年以外の年では年間3千人～4千人程度となっている。観光需要の推定については、これらの入込数も踏まえ検討していく必要がある。

全体的な傾向として、本島には瀬戸内国際芸術祭の作品が展示されており、瀬戸内国際芸術祭が開催されている年は入込数が顕著に多くなる（2022年はコロナ禍）。

また、2020年以降は計測されていないものの本島内の海水浴場の入込客数は年々減少傾向しており、足元においても海水浴を目的とした観光需要は減っているものと推測される。

本島入込数 単位：人 令和7年4月1日現在

観光地点	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	備考
本島全体 入込数	59,485	56,811	75,417	46,390	51,348	70,885	65,161	55,644	※
本島の人口	357	333	319	293	284	275	264	255	
2024年度比人口	140.0%	130.6%	125.1%	114.9%	111.4%	107.8%	103.5%	100.0%	
島民の利用数推定	22,669	21,145	20,256	18,605	18,033	17,462	16,763	16,192	
島民を除いた入込数推定	36,816	35,666	55,161	27,785	33,315	53,423	48,398	39,452	
本島パークセンター	7,469	3,166	39,151	3,561	3,878	7,707	4,084	3,150	
笠島まち並保存センター	1,593	1,409	2,018	481	444	1,049	1,007	1,973	
塩飽勤番所	3,017	2,701	6,716	1,115	1,176	5,325	3,295	3,819	
本島海水浴場	2,200	1,700	1,300	0	0	0	0	0	

※本島全体は丸亀港～本島港、児島港～本島港の年間乗船客数を半分に除した(往復勘案)ものであり、島民乗船数も含む。

※本島パークセンター以下は、本島全体入込数の内数

出典：丸亀市資料等を用いて作成

令和6年度の航路事業者に対する補助額(島民乗船費20%)=本島汽船：3,461,180円、六口丸海運：192,500円

丸亀港～本島港間の一般乗船運賃：560円/片道、児島観光港～本島港の一般乗船運賃：650円/片道

本島汽船の島民推定概算乗船回数/年 … 3,461,180円 ÷ (560円 × 20%) = 30,903回(往復を含んだ回数)

六口丸海運の島民推定概算乗船回数/年 … 192,500円 ÷ (650円 × 20%) = 1,481回(往復を含んだ回数)

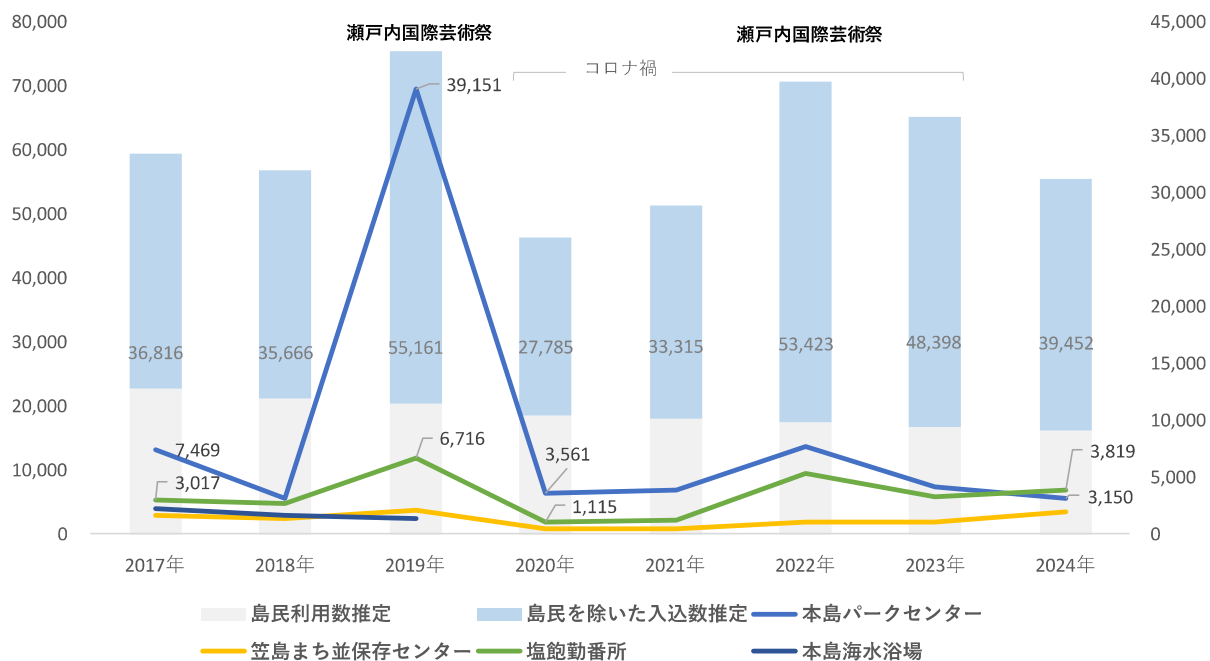
令和6年度の本島全体入込数から除外すべき島民利用数/年 = (30,903回 + 1,481回) ÷ 2 = **16,192人**

令和6年度の島民を除いた入込客数 = 55,644人 - 16,192人 = 39,452人※

※令和6年度(瀬戸内国際芸術祭非開催期間中)の入込客数に占める島民利用率：29.1%

本島の入込数の推移（推定値含む）

単位：人



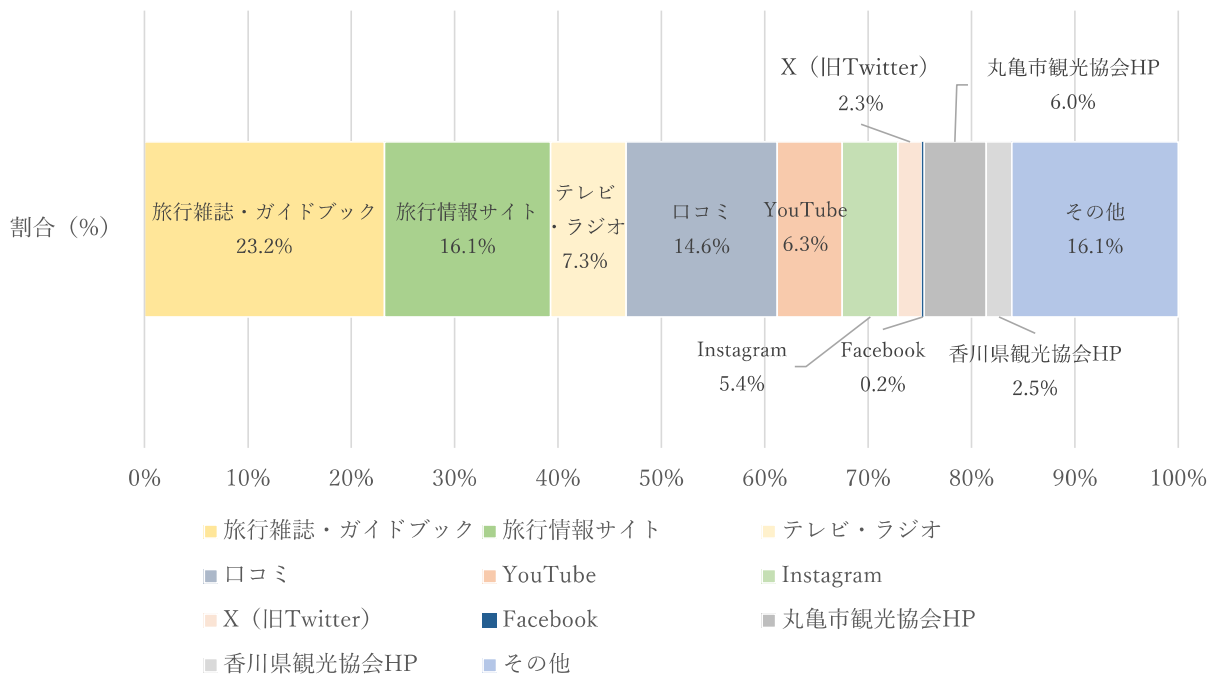
3.2 来訪目的・動向

(1) 来訪のきっかけ

丸亀市内の主要観光地である丸亀城内に訪れたきっかけとして、旅行雑誌やテレビ、旅行情報サイトなどの外部メディアが約半数、口コミ&SNS（X、Instagram、Facebook、YouTube）が約30%であった¹⁰。外部メディアを通じた誘客効果が最も高いものの、口コミやSNS等による来訪者は約3割と、これらの誘客効果を勘案すると、運用や施策等の検討余地はあるものと考えられる。但し、丸亀城の観光客層と本島の訪問者層の適合性については留意が必要である。

¹⁰ 出典：まるがめ DMO 2024 年度 丸亀市観光客動向調査結果

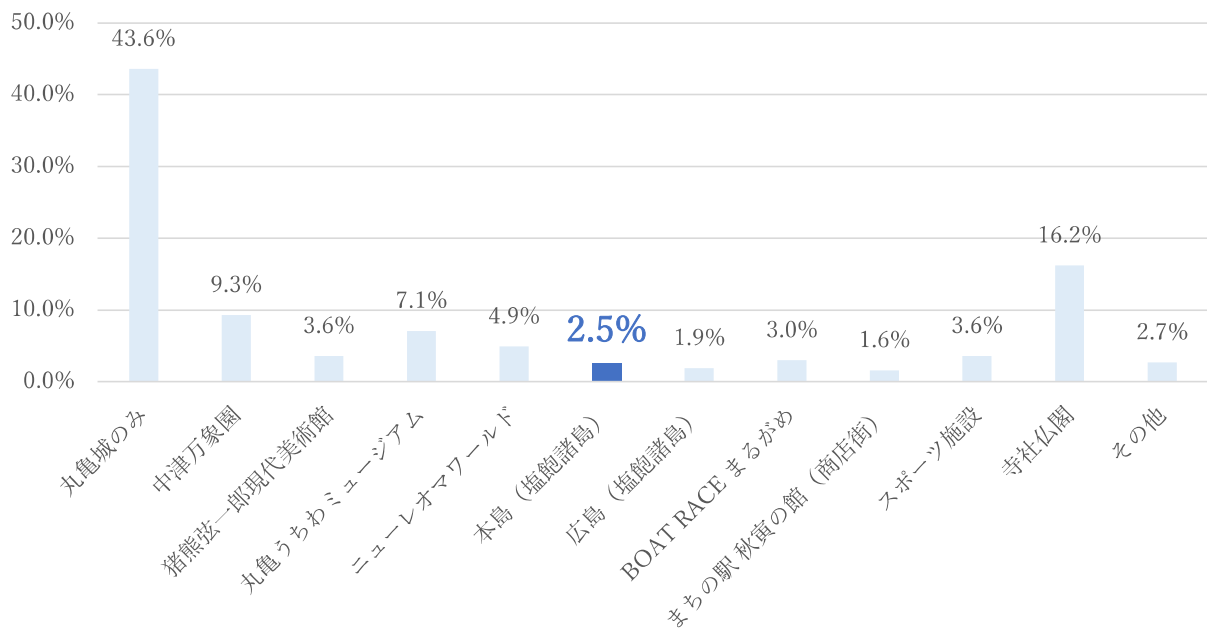
2024年 丸亀城内観光案内所でのアンケート：来訪きっかけの割合



(2) 丸亀市内の訪問地

丸亀城に来た観光客のうち約4割は丸亀城のみの来訪で、本島に来訪する観光客は僅か2.5%であった。本島のPRやアクセス方法等の認知活動・情報提供量の不足なのか、本島の観光地としての魅力が足許では不足しているのか等、要因を推察/調査する必要がある。

令和6年 丸亀城内観光案内所でのアンケート：訪問予定地の割合



■3.3 競合観光地等の比較

瀬戸内（ここでは兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県）には、27の重伝建地区がある¹¹。瀬戸内の重伝建地区の多くは非離島であり、離島（船でのアクセスが主たる移動手段）の重伝建地区は本島、宮島、出羽島のみである。

上記離島の重伝建地区を観光地としての観点でみると、出羽島（徳島県）は観光規模が大きいというわけではない。一方、広島県廿日市市の宮島に関しては、約1,400人程度の人口に対して2024年の来島者数は約497万人と、一大観光地である¹²。

非離島の重伝建地区をみると、鞆の浦（福山市鞆町）や倉敷川畔（倉敷美観地区）などは観光地化されており、倉敷美観地区の2024年の観光入込客数は約308万人と¹³、重伝建を上手く観光コンテンツとして活用している地域である。

また瀬戸内の非重伝建地区の島々や沿岸部の観光地では、離島では小豆島や直島・豊島、島（橋があり車でのアクセス可能）では淡路島や生口島、沿岸部では神戸、高松、尾道などがある。



¹¹ 出典：文化庁 重要伝統的建造物群保存地区一覧

¹² 出典：広島県廿日市市 人口、宮島来島者数一覧表

¹³ 出典：岡山県 令和6年岡山県観光客動態調査結果の概要について

瀬戸内の「重要伝統的建造物群保存地区」一覧

No.	地区名	都道府県	所在地（主要エリアを掲載）	種別	離島
1	神戸市北野町山本通	兵庫県	神戸市北野町	港町	-
2	豊岡市出石	兵庫県	豊岡市出石町伊豆	城下町	-
3	丹波篠山市篠山	兵庫県	丹波篠山市北新町	城下町	-
4	丹波篠山市福住	兵庫県	丹波篠山市福住	宿場町・農村集落	-
5	養父市大屋町大杉	兵庫県	養父市大屋町大杉	山村・養蚕集落	-
6	たつの市龍野	兵庫県	たつの市龍野町下川原	商家町・醸造町	-
7	倉敷市倉敷川畔	岡山県	倉敷市本町・倉敷市中央	商家町	-
8	津山市城東	岡山県	津山市勝間田町	商家町	-
9	津山市城西	岡山県	津山市西今町・津山市西寺町	寺町・商家町	-
10	高梁市吹屋	岡山県	高梁市成羽町吹屋	鉦山町	-
11	矢掛町矢掛宿	岡山県	小田郡矢掛町矢掛	宿場町	-
12	呉市豊町御手洗	広島県	呉市豊町御手洗	港町	△
13	竹原市竹原地区	広島県	竹原市本町	製塩町	-
14	福山市鞆町	広島県	福山市鞆町鞆	港町	-
15	廿日市市宮島町	広島県	廿日市市宮島町	門前町	○
16	萩市堀内地区	山口県	萩市堀内	武家町	-
17	萩市平安古地区	山口県	萩市平安古町	武家町	-
18	萩市浜崎	山口県	萩市浜崎町	港町	-
19	萩市佐々並市	山口県	萩市佐々並	宿場町	-
20	柳井市古市金屋	山口県	柳井市柳井津	商家町	-
21	美馬市脇町南町	徳島県	美馬市脇町南町	商家町	-
22	三好市東祖谷山村落合	徳島県	三好市東祖谷落合	山村集落	-
23	牟岐町出羽島	徳島県	海部郡牟岐町牟岐浦出羽島	漁村集落	○
24	丸亀市塩飽本島町笠島	香川県	丸亀市本島町笠島	港町	○
25	宇和島市津島町岩松	愛媛県	宇和島市津島町岩松	在郷町	-
26	西予市宇和町卯之町	愛媛県	西予市宇和町卯之町	在郷町	-
27	内子町八日市護国	愛媛県	喜多郡内子町内子	製蠟町	-

瀬戸内の重伝建以外の参考地

No.	地域名	都道府県	所在地	種別	離島
1	犬島	岡山県	岡山市東区犬島	離島・アート	○
2	真鍋島	岡山県	笠岡市真鍋島	離島・猫	○
3	大久野島	広島県	竹原市忠海町	離島・うさぎ	○
4	小豆島	香川県	小豆郡土庄町・小豆島町	離島・観光地	○
5	直島	香川県	香川郡直島町	離島・アート	○
6	豊島	香川県	小豆郡土庄町豊島	離島・アート	○
7	佐柳島	香川県	仲多度郡多度津町	離島・猫	○
8	淡路島	兵庫県	淡路島淡路市・洲本市・南あわじ市	島・観光地	△
9	大三島	愛媛県	今治市大三島	島・神社	△
10	生口島	広島県	尾道市瀬戸田町	島・サイクリング	△
11	周防大島	山口県	大島郡周防大島町	島・リゾート	△
12	神戸	兵庫県	神戸市	港湾有り・観光地	-
13	宇野	岡山県	玉野市	港湾有り・アート	-
14	尾道	広島県	尾道市	港湾有り・観光地	-
15	鳴門	徳島県	鳴門市	港湾有り・観光地	-
16	高松	香川県	高松市	港湾有り・観光地	-

※離島：島に渡る道がある場合は△と記載

※種別：観光客の目的が複数ある場合は観光地と記載

観光地化されている地域は周遊性やアクセス環境が良い、もしくは対策されている地域が多い。

また、アートや世界遺産などのコンセプトが明確で、“そこでしかできない体験”や“その場所で得られる体験”のイメージがしやすく、来訪目的や来訪理由が明確になっている傾向がある（ex.宮島…世界遺産となっている厳島神社の鳥居の風景イメージ、直島…現代アートのイメージ等）。

受入体制面においては、滞在時間が短期間にならないよう、宿や飲食、ナイトコンテンツなどによって、滞在消費を生むための体制整備や、地域内での回遊導線（複数スポット＋体験、飲食等）が設計されている。

■3.4 観光需要の課題と示唆

一般的に人口と経済規模は正の相関関係があるものの、本島は瀬戸内国際芸術祭などの効果もあり、人口規模に対する本島の入込数は相応に確保している。

昨今減少傾向にある海水浴場の入込数については、時代の変化とともに今後も減少が続く可能性が高いものの、瀬戸内国際芸術祭の開催期間中には入込客数が増加するなど、アートを起点とした誘客は一定の成果が出ており、観光需要の創出を果たしている。

一方で、瀬戸内国際芸術祭の会期中を除く常時では、本島パークセンターや笠島まち並保存センター、塩飽勤番所等の入込客数が年間3千人～4千人程度にとどまっており、本島への入込数を歴史資源を活かした“観光客”として繋げられていない可能性がある。丸亀市内の主たる観光地である丸亀城には関東、近畿、中部など

遠方からの観光客が来ているため、これら含めて本島への導線を上手く作っていく必要がある。
また本島は人口減少による影響が深刻で、昨今課題となっているオーバーツーリズムや、持続的な地域づくりが今後の大きな課題となる。

4. 地域資源等の整理

■4.1 自然資源

(1) 海岸線・海水浴場

海岸線・海水浴場



[泊海水浴場]

本島港に近く、透明度の高い海と白い砂浜が特徴で、泊海水浴場からは対岸の牛島を望み、周辺海域の多島美が映える雰囲気が広がっている。2006年には環境省から「快水浴場百選※」のひとつとして、「島の部特選」に選定されている。

※快水浴場百選：環境省が「美しい」「清らか」「安らげる」「優しい」「豊か」という水辺に係る評価軸に基づき全国100ヶ所の水浴場を選定し、そのうち総合的な評価が高い12ヶ所を特選として選定。



【泊海水浴場】

出典：まるがめせとうち島旅ノート

[屋釜海水浴場]

島の北側にある海水浴場。対岸には岡山県の水島コンビナートや鷺羽山の風景を望むことができる。静かな入江にありプライベート感のある穏やかなビーチ。



【屋釜海水浴場】

出典：まるがめせとうち島旅ノート

[新在家海岸]

塩飽諸島の中でも瀬戸大橋を真横に見られる絶景スポット。羽を広げたような斜張橋を正面に、岡山県児島へと続くつり橋を眺めることができる。



【新在家海岸】

出典：まるがめせとうち島旅ノート

[園の洲]

本島の西側に大潮の干潮時になると2~3時間ほど現れる砂州。広さは南北2km、東西800mに及ぶ。

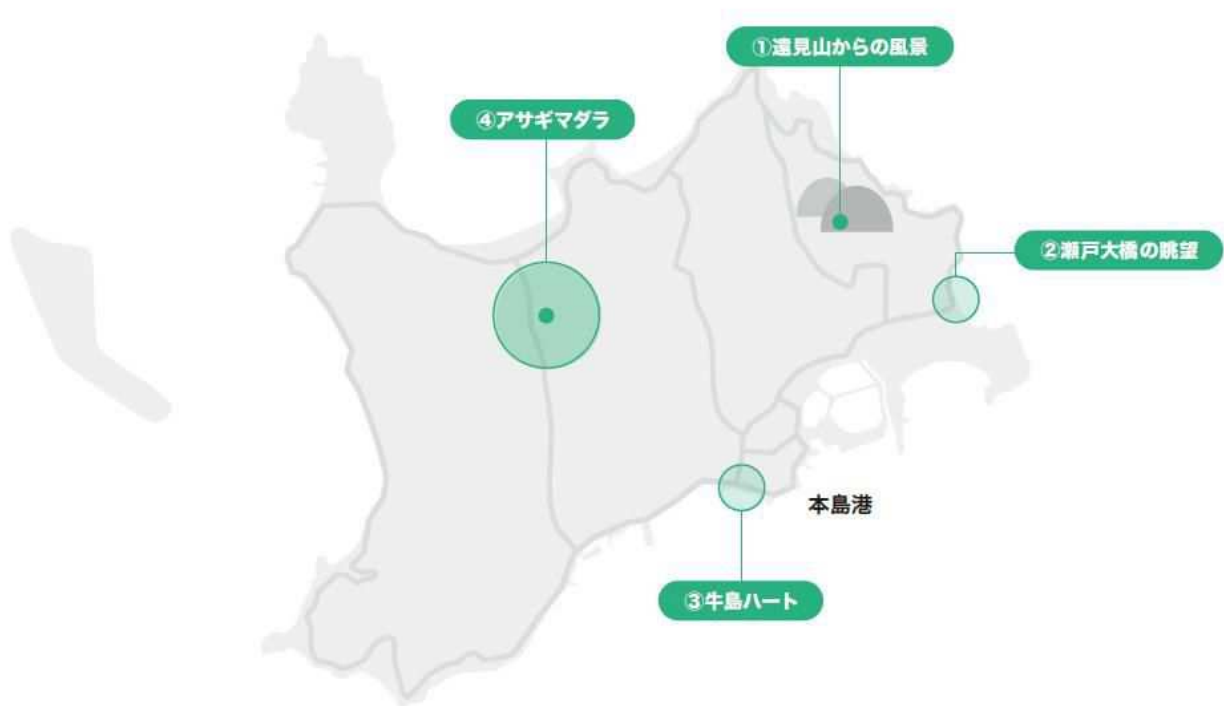


【園の州】

出典：まるがめせとうち島旅ノート

(2) 眺望スポット等

眺望スポット



- ・遠見山からの風景：遠見山(標高 110m)の山頂展望台は本島港から徒歩 40 分程度。瀬戸大橋、瀬戸内海の多島美、四国山地を一望できる。特に夕暮れ時の景観は圧巻で、瀬戸内海に沈む夕日と島影のシルエットが幻想的な光景が見られる。
- ・瀬戸大橋の眺望：島の東側から、世界最大級の橋梁を間近に見ることができる。青い空と海に瀬戸大橋が映える。
- ・牛島ハート：ハート型に見える牛島の景観。SNS 向き。
- ・アサギマダラ：1 年間に 2 千 km 以上も移動する「旅する蝶」。島民がアサギマダラが好むフジバカマを植えて誘致をしてきたもの。花が咲く 10 月が見頃。なお、アサギマダラは人気マンガ「鬼滅の刃」でも登場し知名度が向上した。



【遠見山】

出典：まるがめせとうち島旅ノート



【牛島ハート】

出典：まるがめせとうち島旅ノート



【アサギマダラ】

出典：まるがめせとうち島旅ノート

(3) 瀬戸内海国立公園の指定

本島を含む塩飽諸島は1934年に「瀬戸内海国立公園」の一部として指定されている¹⁴。

瀬戸内海の多島美は、小さなものまで数えると約3,000にもなるといわれており、世界的にも稀有な内海景観で、穏やかな海、点在する島々が一体となって他に類を見ない景観を形成している。

また、香川県が指定する「地域産業資源」の観光資源領域においても、「瀬戸内海国立公園 本島」として、近隣の広島、手島、小手島などと共に登録されている。

■4.2 歴史・文化資源

(1) 本島の歴史

- ・本島は古代から瀬戸内海の海上交通の要衝として栄え、中世には「塩飽水軍」として存在感を示し、近世には「人名(にんみょう)」という制度が確立した。近代には「咸臨丸」で太平洋を渡り、現代では「重要伝統的建造物群保存地区」として町並みを守り続けている¹⁵。

[古代～中世]

- ・塩飽諸島の人々は、古くから優れた操船・造船技術を持っており、平安時代には朝廷の海運業務に従事し、戦国時代には織田信長との関係性を深めた。以降、塩飽水軍は信長・秀吉・家康の天下人に仕え、兵糧米や築城石の輸送など、海上輸送において重要な役割を担っていく。

[近世：「人名」制度の確立]

- ・本島の歴史で特筆すべきなのが、江戸時代に確立された「人名(にんみょう)」制度である。1590年、秀吉からの朱印状により、塩飽の船方衆650名に1250石の領知が与えられた。江戸時代においては徳川家康から同様に朱印状が授与され、領知安堵を得るとともに船方衆は御用船・御用船方として活躍した。塩飽では650名の船方を、大名などに準じて「人名」と呼び、その組織を塩飽島中と称した。1250石の物成高と入漁者が納める運上賃などの収入は、幕府に納入することなく、全て幕府への公役と島中の経費に使用することが許されていた。これは、武士でも農民でもない「船方」という職能集団に、幕府が領知を委ねた、全国でも珍しい制度であった。
- ・「年寄(としより)」と呼ばれる代表者が在地領主的存在として200年にわたり支配してきたが、島中政治の混乱から罷免され、寛政5年(1793年)に新年寄が合議制で政務を執るようになり、塩飽勤番所がその拠点となった。この体制は明治維新まで続いた。
- ・最盛期の元禄時代(1688～1704年)には、本島に約4,000人以上が居住し、廻船業や造船業で大いに繁栄した。笠島地区は廻船問屋や船大工関連の事業者が集積し、現在の町並みの基礎が形成されたのもこの時期である。

[近代：咸臨丸への同乗]

- ・幕末の1860年、日米修好通商条約批准のための遣米使節団を乗せた咸臨丸が太平洋を横断した。この航海を支えたのが、塩飽の船方35名である(咸臨丸の水夫50名のうち、35名が塩飽出身者)。彼らは勝海舟や福澤諭吉らとともに太平洋の荒波を越え、日本の近代化に貢献した。塩飽勤番所跡には、咸臨丸に乗船した塩飽水夫達が持ち帰った品々が展示されている。

¹⁴ 出典：環境省 国立公園一覧

¹⁵ 出典：塩飽史談会 塩飽史年表、塩飽大工顕彰会 塩飽大工(改定第二版)等

[現代：笠島地区の重伝建選定]

- ・1985年、笠島地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定された¹⁶。人口減少・高齢化という課題を抱えながらも、NPO法人本島笠島まち並保存協会(会長:三宅邦夫氏)や、一般社団法人笠島まち並保存活用会(代表理事:三宅邦夫氏)が中心となり、町並みの保存と活用に取り組んでいる。
- ・近年は、若手事業者による古民家活用ビジネス(株式会社スナック、有限会社ロワール商事等)や、漁業の6次産業化(株式会社塩飽 Fisheries)、クラフトビール醸造(久福ブルーイング)など、新たな動きも生まれている。

(2) 塩飽水軍

- ・塩飽水軍は瀬戸内海を舞台に活躍した海上勢力である。瀬戸内で古くから武力をもって瀬戸内海で活動していた村上水軍とは異なり、塩飽水軍は一貫して武力を持たず、その操船技術をもって生きた。

[古代から続く操船技術]

- ・瀬戸内海の多島美は美しさの反面、潮流は複雑で激しく、そこで生きてきた塩飽の人々は、古代から高度な操船技術を持っていた。

[戦国時代の活動]

- ・戦国時代、塩飽水軍は織田信長、豊臣秀吉といった時の権力者に重用された。1590年、秀吉からの朱印状により、塩飽の船方衆650名に1250石の領知が与えられた。役務としては公儀の船役を担い、1592年～朝鮮出兵(文禄・慶長の役)では、兵員や物資の輸送に従事した。

[江戸時代：廻船業と造船業の盛衰]

- ・1600年、関ヶ原合戦では徳川方に味方し、家康から秀吉と同様の朱印状を得た。
- ・江戸時代、塩飽の人々は廻船業・造船業へと軸足を移していった。千石船(北前船)の造船も塩飽衆の手によるものであり、笠島地区には廻船問屋や船大工関連の事業者が集積した。
- ・その後、1720年代に入ると、幕府が北前船による米海運等の差配を江戸の廻船問屋筑前屋作右衛門に命じたことや、大坂をはじめとした全国の廻船事業者の台頭などにより、本島の海運関連産業の優位性が徐々に失われ始める。

[幕末：咸臨丸での太平洋横断]

- ・前述のとおり、咸臨丸の航海を支えたのは塩飽の船方35名である(咸臨丸の水夫50名のうち、35名が塩飽出身者)。太平洋の荒波の中、彼らは卓越した操船技術で咸臨丸を導いた。この航海は、日本が近代国家として世界に踏み出す象徴的な出来事であり、塩飽の人々はその一翼を担った。

(3) 塩飽大工

[塩飽大工の誕生]

- ・「塩飽大工」と呼ばれる大工集団は、江戸時代より備前・備中・讃岐で活躍し、善通寺五重塔(重要文化財)、備中国分寺五重塔(重要文化財)、金刀比羅宮及び旭社などの大規模寺社建築を手掛けた。
- ・笠島の町並みで見られる「起り(むくり)」屋根や「親子千本出格子窓」は、塩飽大工の高度な技術の証である。

¹⁶ 出典：文化庁 伝統的建造物群保存地区

(4) 国指定文化財

国指定文化財



① 史跡 塩飽勤番所跡

【概要】

- ・塩飽領の旧政庁。当初、1798年（寛政10年）に築建、現在の建物は1860年（万延元年）に再建。

【展示内容】

- ・塩飽古地図、東廻り西廻り海路図
- ・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康*などの朱印状
*徳川家康朱印状：650人の「人名」に1250石の領知を認めた文書
- ・咸臨丸関連資料
- ・古文書：裁判記録、徴税台帳、海運関連文書など

【建築的特徴】

- ・長屋門、主屋、朱印庫
- ・主屋は入母屋造、本瓦葺



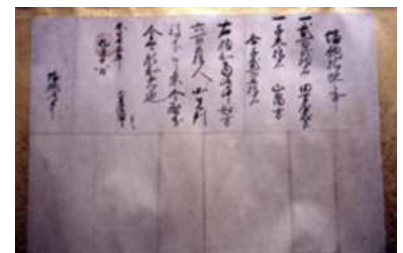
【塩飽勤番所 主屋】

出典：まるがめせとうち島旅ノート



【塩飽勤番所 長屋門】

出典：丸亀市 HP



【徳川家康朱印状】

出典：丸亀市 HP

②重要伝統的建造物群保存地区 丸亀市塩飽本島町笠島



[概要]

- ・笠島地区は本島の北東部に位置する小さな港町で、廻船業で活躍した塩飽水軍の本拠地であった。北に天然の良港が開け、三方は丘陵に囲まれている。江戸時代から大正期にかけて形成された港町の町並みが良好に保存されている地区である。1985年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

[保存地区の範囲]

- ・面積：約 13.1ha（出典：国指定文化財等データベース）
- ・伝統的建造物：106棟（出典：伝建協「伝建台帳」）うち主屋：84軒（出典：丸亀市作成位置図）
- ・町家、土蔵、石垣、路地、井戸など

[特徴]

塩飽の政治・経済の中心地であった笠島地区は、港から入ってくる敵からの襲撃に対応できるよう見通しがきかないようにつくりになっており、集落内には狭い通路が網の目のように通っている。このうち集落の東寄りを南北に走る東小路と、これに直行して弓なりに通る「マッコ通り」に面して、町屋形式の建物が立ち並び、歴史的な町並みが形成されている。

これらの建物は、重厚な本瓦葺の屋根に白い漆喰で瓦の目地を盛り上げた「なまこ壁」と「虫籠窓」や格子窓があしらわれており、随所に塩飽大工の工夫が見受けられ、機能美と歴史的な町並みの美しさを感じることができる。

[町並みの歴史]

- ・ 前述のとおり、本島は塩飽水軍の本拠地～廻船問屋・船大工の集積地として繁栄してきた。
- ・ 海運関連産業の衰退と共に、明治以降の人口は減少してきたが、町並みは比較的良好に保存された。
- ・ 1985年の重伝建地区選定後、NPO法人本島笠島まち並保存協会などが中心となり、町並みの保存と活用に取り組んでいる。
- ・ なお、保存地区内には84棟の伝統的建造物主屋（出典：丸亀市位置図）が密集しており、現代の建造物等があまり混在していないことが、他の重伝建地区と比較した際の特徴といえる。



【笠島の町並み】

出典：まるがめせとうち島旅ノート



【白漆喰となまこ壁】

出典：まるがめせとうち島旅ノート

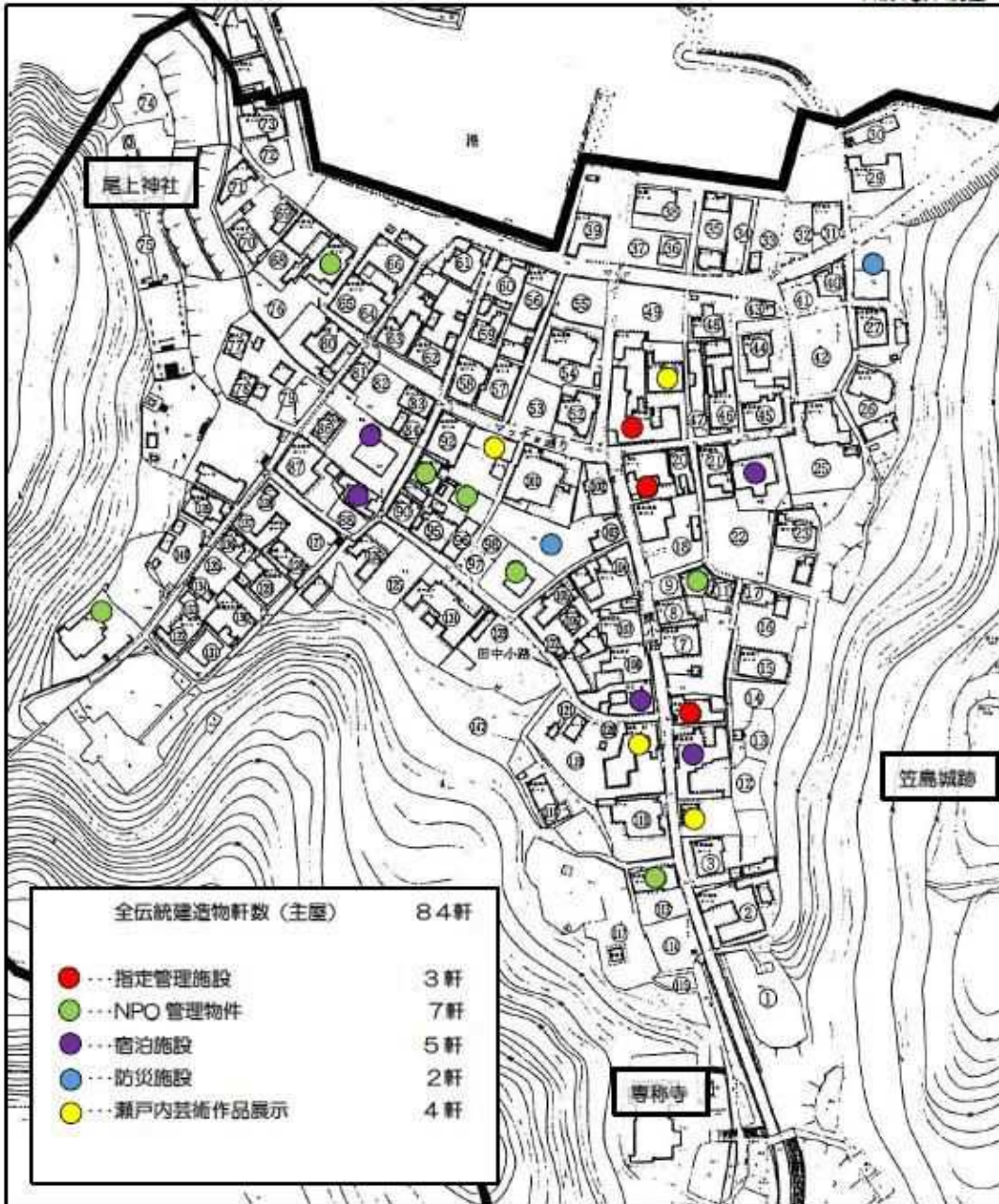
[伝統的建造物の利活用]

保存地区内には84軒の伝統的建造物の主屋があり、令和6年10月1日現在で、その利活用状況は以下の図のようになっている。

丸亀市の指定管理施設3軒の他、NPO法人が管理している物件が7軒（空き家の活用希望者とのマッチングも実施）、その他にも宿泊施設として5軒の利用を行っている。また瀬戸内国際芸術祭の開催期間中は、笠島地区にて伝統的建造物も利用しながら作品の展示等を行っている。

笠島伝統的建造物群保存地区位置図

R6.10.1 現在



出典：丸亀市からの提供

③登録有形文化財 三所神社幣拝殿(宗教構築物)

[概要]

明治/1897

木造平屋建、瓦葺、建築面積 38 m² 1棟

香川県丸亀市本島町生ノ浜字浦内 635

登録年月日:20221031 三所神社

登録有形文化財(建造物)

[特徴等]

- ・塩飽諸島本島の生ノ浜浦に所在する神社の拝殿及び弊殿。
- ・正面三間側面二間、入母屋造本瓦葺、正面に千鳥破風、唐破風向拝を重ねる。
- ・背面に弊殿を張り出し、本殿と接続する。水引虹梁、蟄股、手挟、向拝の彫刻に技量を示す。



【三所神社 拝殿】

出典：文化遺産オンライン



【三所神社 拝殿】

出典：文化遺産オンライン

④登録有形文化財 三所神社本殿(宗教建築物)

[概要]

江戸／1830

木造平屋建、瓦葺、建築面積 9.2 m² 1 棟

香川県丸亀市本島町生ノ浜字浦内 635

登録年月日:20221031 三所神社

登録有形文化財(建造物)

[特徴]

- ・塩飽諸島本島の生ノ浜浦に所在する神社本殿。一間社流造、本瓦葺で二重切石基壇、亀腹上に建つ。
- ・正側面に高欄付切目縁を廻らし、身舎両袖に脇障子を建てる。板支輪の彫刻、手挟や木鼻の丸彫彫刻等いずれも巧緻で躍動感があり塩飽大工の力量が示される。



【三所神社 本殿】

出典：文化遺産オンライン

⑤その他文化財等（出典：「ふれあいの本島」まちづくり計画 2016～2020）

(1)国指定（10件）

[史跡]

- ・ 史跡塩飽勤番所跡
- ・ 年寄宮本家の墓 10基
- ・ 年寄入江四郎左衛門の墓 1基
- ・ 年寄吉田彦右衛門の墓 1基

[重要伝統的建造物群保存地区]

- ・ 丸亀市塩飽本島町笠島伝統的建造物群保存地区

[彫刻]

- ・ 木造薬師如来坐像 1軀
- ・ 木造観音菩薩像 1軀
- ・ 木造不動明王像 1軀
- ・ 木造毘沙門天像 1軀

[工芸品]

- ・ 線刻十一面観音鏡 像（牡丹模文鏡） 1面



(2)香川県指定文化財（5件）

[絵画]

- ・ 絹本着色両界曼荼羅図 1幅

[彫刻]

- ・ 木造阿闍如来座像 1軀
- ・ 木造弥勒仏座像 1軀
- ・ 木造薬師如来座像 1軀

[史跡]

- ・ 笠島城跡



(3)丸亀市指定文化財（27件）

[建造物]

- ・ 木鳥神社鳥居 1基
- ・ 千歳座 1棟
- ・ 制礼場 1棟
- ・ 夫婦倉 1棟

[天然記念物]

- ・ モッコクの木（長徳寺）

※他、史跡1・絵画4・彫刻6・工芸品5・書跡1・古文書2・考古資料1・歴史資料1

(5)日本遺産の認定

- ・ 本島が属する塩飽諸島や小豆島、笠岡諸島など大小無数の島々で構成されている備讃諸島で産出された花崗岩は、日本の近代文化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表である大阪城の石垣などに用いられ、長きにわたり日本の建築文化を支えた。その歴史や文化は令和元年に日本

遺産※として認定されている¹⁷。

※日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。

- ・ なお、備讃諸島で産出された石は海運によって各地に運ばれ、塩飽諸島地域の人々の海運力と優れた操船技術が石の運搬を支えた。
- ・ 本島では日本遺産の構成文化財として石切丁場跡等 6 件が認定されている¹⁸。

本島にある日本遺産の構成文化財

出典：日本遺産 ポータルサイト

構成財	地区	概要
塩飽本島高無坊山石切丁場跡	本島町笠島	江戸時代初期、大阪城再建のために大名が石をとった丁場跡
年寄の墓	本島町泊	塩飽衆の代表者「年寄」たちの墓
塩飽勤番所	本島町泊	塩飽の政治の中心地
笠島集落	本島町笠島	塩飽の繁栄を物語る伝統的建造物群保存地区
木鳥神社鳥居	本島町泊	江戸時代初期の大鳥居
千歳座	本島町泊	文久2年（1862年）に建設された芝居小屋



【塩飽本島高無坊山石切丁場跡】

出典：日本遺産ポータルサイト



【木鳥神社鳥居】

出典：日本遺産ポータルサイト



【千歳座】

出典：日本遺産ポータルサイト

■4.3 芸術

香川県・岡山県の島々や沿岸部では、2010年から3年に1度、瀬戸内国際芸術祭が開催され、国内のみならず海外からも多く観光客が訪れる地域を代表したイベントとなっている。

瀬戸内国際芸術祭 2025 の全会場における来場者数は 100 万人を超えた¹⁹。本島会場においては笠島地区、泊地区を中心に作品が展示され、約 2.6 万人が来場するなど、芸術祭の開催による影響は大きい。

¹⁷ 出典：文化庁 日本遺産認定地域一覧

¹⁸ 出典：文化庁 日本遺産構成文化財

¹⁹ 出典：瀬戸内国際芸術祭 2025 公式 Web サイト

単位：人

会場	瀬戸内国際芸術祭2025の来場者数（107日間）				(参考)2022年 来場者数(105)
	春会期38日間	夏会期31日間	秋会期38日間	計	
全会場	320,668	282,702	480,758	1,084,128	723,316
直島	109,706	90,332	138,421	338,459	166,737
豊島	49,268	36,727	59,369	145,364	97,391
小豆島	46,607	34,078	59,436	140,121	123,382
女木島	21,256	13,063	27,008	61,327	44,553
男木島	20,728	11,458	24,434	56,620	40,228
高松港エリア	18,258	14,569	14,617	47,444	62,131
宇多津エリア	-	-	42,783	42,783	-
犬島	12,754	8,329	17,324	38,407	34,503
引田エリア	-	34,690	-	34,690	-
志度・津田エリア	-	32,090	-	32,090	-
瀬戸大橋エリア	31,551	-	-	31,551	44,790
本島	-	-	25,781	25,781	17,679
宇野港エリア	7,785	5,246	8,913	21,944	35,479
粟島	-	-	21,660	21,660	15,163
高見島	-	-	20,666	20,666	21,596
伊吹島	-	-	17,017	17,017	13,167
大島	2,755	2,120	3,329	8,204	6,517

出典：瀬戸内国際芸術祭2025 公式Webサイト

瀬戸内国際芸術祭2025 本島会場における展示

出典：瀬戸内国際芸術祭2025 公式Webサイト

No.	作品	作家	展示地区
① ho01	Vertrek 「出航」	石井 章	本島町泊
② ho05	漆喰・鍍絵かんばんプロジェクト	村尾 かずこ	本島町泊
③ ho06	咸臨の家	眞壁陸二	本島町泊
④ ho10	Moony Tunes	ツェ・スーメイ	本島町笠島
⑤ ho12	レボリューション／ワールドライズ	アリシア・クヴァーデ	本島町笠島
⑥ ho13	水の下の空	アレクサンドル・ポノマリョフ	本島町笠島
⑦ ho14	無二の視点から	藤原史江	本島町笠島
⑧ ho15	SETOUCHI STONE LAB	川島大幸	本島町笠島
⑨ ho18	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	-	※非本島(浜町)
⑩ ho19	ディスパッチ	ジャッガイ・シリブート	本島町泊
⑪ ho20	うみのえまつり	コタケマン	本島町笠島
⑫ ho21	House of Shadows (影の家)	エカテリーナ・ムロムツェワ	本島町笠島
⑬ st04-2	Echoes as Air Flows	寛康明	本島町笠島



【Vertrek 「出航」】

出典：瀬戸内国際芸術祭 2025
公式 Web サイト



【漆喰・鏝絵かんばんプロジェクト】

出典：瀬戸内国際芸術祭 2025 公式 Web サイト



【水の下空】

出典：瀬戸内国際芸術祭 2025 公式
Web サイト

作品番号	作品名 作家名	開館時間	2026年03月																															備考
			日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
ho01	Vertrek 「出航」 石井章	屋外作品	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	常時鑑賞可
ho05	漆喰・鏝絵かんばんプロジェクト 村尾かずこ	屋外作品	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	常時鑑賞可
ho06	咸臨の家 眞壁陸二		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho10	Moony Tunes ツェ・スーメイ		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho12	レボリューション/ワールドライ ンズ アリシア・クヴァーデ		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho13	水の下空 アレクサンドル・ポ ノマリョフ	屋外作品	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho14	無二の視点から 藤原史江		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho15	SETOUCHI STONE LAB 川島大幸		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho20	うみのえまつり コタケマン		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
ho21	House of Shadows (影の家) エ カテリーナ・ムロムツェワ		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	

出典：瀬戸内国際芸術祭 2025 公式 Web サイト

■4.4 特産品・食文化・地場産業

(1) 食文化・特産品・漁業について

- ・ 本島の食文化は豊かな瀬戸内海の漁場を背景とした、タコや魚などの海の幸が特徴である。
- ・ 漁業は島民にとって身近なものであり、それは生活に根付いた食文化を形成している。本島では、大量生産・大量販売ではなく「作り手の顔が見える」や「ストーリーがある」食事を提供することで、付加価値向上に繋げることのできる可能性がある。

① タコ

タコは「本島名物」である。瀬戸内海のタコは身が締まり、甘みがあることで知られているが、本島のタコは特に評価が高く「本島のタコは別格」と言われる。

② 季節の魚

瀬戸内海は、季節ごとに多様な魚が水揚げされる豊かな漁場である。本島では、季節の旬の魚を味わうことができる。

- ・ 魚種は春のサワラ、夏のマナガツオ、冬のタイラギ貝が有名である
- ・ 通年ではタイ、クロダイ（チヌ）、タコなどが主要魚種であり、イカ、メバル、カサゴも水揚げされる
- ・ 本島漁協の主要取扱魚種はサワラ、タコ、カキ（養殖）、ノリ（養殖）である。

- ・特にサワラは、瀬戸内海の春を代表する魚で、刺身や西京焼き等で食される。マナガツオは、上品な白身で、煮付けや塩焼きに最適。タイラギ貝は冬の味覚で刺身、丼、バター焼き等で食される。

(2) その他の地場産業について

①建築業（塩飽大工）

塩飽大工は、江戸時代から明治にかけて備前・備中・讃岐で活躍した一大大工集団で、「木を曲げる」「精密な継ぎ手を作る」「水密性を確保する」といった高度な技術を持っていた。

[主な建築物]

善通寺五重塔(重要文化財)：1902年完成、高さ約43m、国内の木造塔として3番目の高さを誇る

備中国分寺五重塔(重要文化財)：1844年完成、高さ34m、岡山県内唯一の五重塔

金刀比羅宮：本宮、旭社などの建築に参加

笠島の町家：千本格子、起り屋根など、高度な技術を駆使



【金毘羅宮本宮】

出典：金毘羅宮 HP



【善通寺五重塔】

出典：総本山善通寺 HP

[技術の特徴]

- (1)起り(むくり)：屋根の中央部が緩やかに膨らんだ曲線。京都の寺社建築に見られる意匠で、木材を曲げる高度な技術が必要。
- (2)親子千本出格子窓：細い格子を密に配した窓。光と風を通しながら、外からの視線を遮る機能美。
- (3)精密な継ぎ手：釘を使わず、木材を組み合わせる技術。船大工の技術がそのまま活かされている。

[現状と課題:]

- ・塩飽大工の技術は現在も笠島の古民家修復に活かされているが、後継者不足が深刻で技術継承が課題となっている。
- ・また現在は塩飽大工の技術を、「過去の遺産」として建築物の鑑賞に留まっており、歴史的な背景をもつ技術として現代で実際に触れる機会が少なくなっている。

②宿泊業

- ・笠島地区・泊地区を中心に複数のゲストハウス・民泊・民宿が存在。
詳細は■5.1に記載。

③飲食業

- ・笠島地区・泊地区を中心に複数の飲食店が存在。
詳細は■5.1に記載。

■4.5 地域行事・イベント等

本島では毎年行われる地域行事として、「お大師まいり」や「夏の柴燈護摩」がある。

これらは地域の伝統行事であり、島外から訪れる人が行事（イベント）を通して地域住民や歴史や文化に触れる機会となっている。

また昨今では3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭のほか、島内をゲーム感覚で巡っていくことのできるイベントや、本島で獲れる魚を活かしたイベントなどを行い、地域の活性化を図っている。

伝統行事		
お大師まいり	毎年 旧暦3月4日	島民が先祖供養のため浄財を集めて参拝者に接待する行事。参拝者は島内にあるお寺やお堂を巡る
夏の柴燈護摩	毎年 7月第3日曜	妙智山正覚院観音寺で開催。護摩焚きや火渡りの荒行等を行う
その他のイベント等		
瀬戸内国際芸術祭	3年毎 春・夏・秋	瀬戸内の島々等で3年毎に開催される現代アートの祭典。春夏秋で計約100日間開催される
まちあるきみつけ 塩飽本島マイペースミッケ大会	毎年 秋頃	島内のチェックポイントを周り、時間内に得点を集めるイベント
本島サワラ祭り	毎年 4月頃	”本島さかな部”が泊地区で行っているイベント。過去には解体ショーやプチ水族館等の催しもあり



【お大師まいり】



【柴燈護摩】



【塩飽本島マイペースミッケ大会】



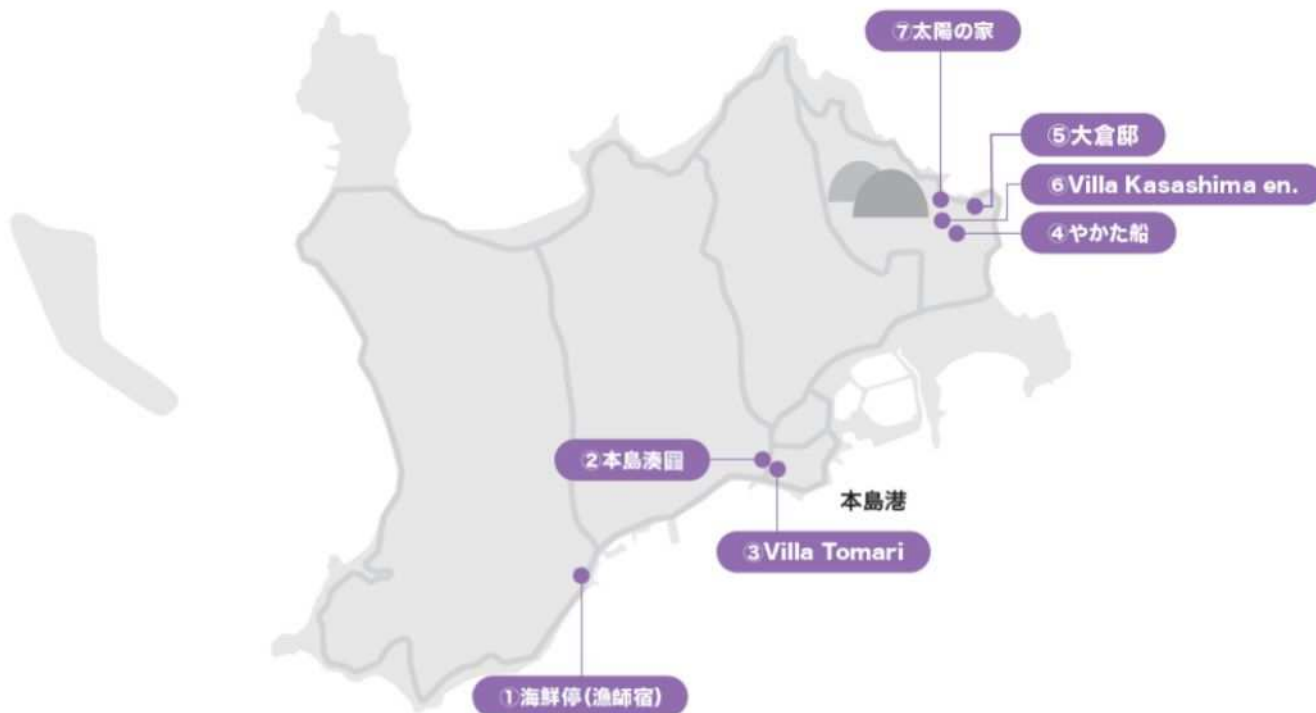
【サワラ祭り】

出典：まるがめせとうち島旅ノート 出典：妙智山正覚院観音寺 HP 出典：大会 Web ページ 出典：エフエム香川 Web ページ

5. 受入環境・回遊性の状況

■5.1 施設整備状況

(1) 宿泊施設について



※以下、各施設の写真や情報は、各店舗の Web サイト、島旅ノート、Instagram、その他インターネット情報等から抜粋

①海鮮停(漁師宿)

HP なし、Instagram なし

所在地：【小阪地区】※泊に近い

タイプ：漁師が営む民宿

収容人数：記載なし

料金：記載なし

備考：瀬戸大橋が一望できる漁師宿。漁師ならではの豪快な魚料理が自慢。本島の豊かな漁場でとれる新鮮な魚が食べられる。南向きの海辺の宿。料理のみの利用は不可



②本島湊圓(古民家・有限会社カノークス)

HP あり、Instagram あり

所在地：【泊地区】

タイプ：古民家オモヤ1棟貸し、古民家ハナレ1棟貸し

収容人数：記載なし

料金：記載なし

一棟貸の「オモヤ」とドミトリスタイルの「ハナレ」。2つのスタイルから選択。

- ✓ オモヤ…150年前の古民家を改装したオモヤ。一棟貸となっており、ラグジュアリーながら島の良さやあたたかさを感じられる。
- ✓ ハナレ…オモヤよりも"本島で暮らす"を体験できるハナレ。シャワー・トイレ付きの個室でプライベートな空間を守りつつ滞在が可能。

備考：経営_(有)カノークス。塩飽水軍の末裔が暮らした築150年の古民家をリノベーション。

浜辺まで徒歩1分



③Villa Tomari(古民家・株式会社スナック)

HP あり、Instagram あり ※tomari と kasashima が共同アカウント運用

所在地：【泊地区】

タイプ：古民家1棟貸し

収容人数：3名(和室に寝具をご用意)+1名(ソファベッド)

料金：(基本)一棟貸し¥50,000 ※1名で宿泊される場合も一棟貸し料金

オプション：プライベートサウナ_1組1日¥7,700

間取り 床面積/72.71㎡ 1F/リビング、和室、ダイニング、キッチン、バスルーム、洗面、トイレ

備考：2025年に古民家をリノベーションしオープンした一棟貸しのVilla。本島港やコミュニティセンターなどにも歩いて行ける距離であるなど、本島の中でも利便性の高い立地。



④やかた船(古民家・民宿：高島氏、糸賀氏)

HP あり、Instagram なし

所在地：【笠島地区】

タイプ：古民家民宿

収容人数：記載なし

料金：1泊2食付 海鮮料理 15,000 円、バーベキュー10,000 円、素泊まり、6,000 円

※一棟貸しの場合は¥50,000

備考：笠島まち並保存地区にある築 220 年の古民家民宿。海の幸を使った海鮮料理が楽しめる。10 名以上の利用で、予約をすれば昼食のみの利用も可能。



⑤大倉邸(古民家・自炊型宿泊施設、運営：本島まち並保存センター)

HP なし、Instagram なし

所在地：【笠島地区】

タイプ：古民家自炊型宿泊施設

収容人数：2 名～10 名

料金：宿泊料金 6,000 円/人、子供(小学生) 2,000 円/人、幼児は寝具利用等の場合実費。

バーベキュー用炭(3kg)600 円、着火剤 200 円、カセットコンロ用ボンベ(1 本) 200 円

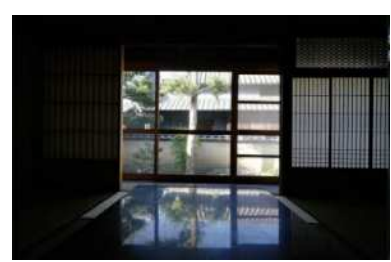
・ 3 室 (8 畳、8 畳、6 畳) の和室とキッチンの間取り

・ 風呂は家庭用サイズ、トイレは簡易水洗

・ 素泊まりだが、寝具、電子レンジ、冷蔵庫、炊飯器、鍋、食器類は配備 (食材は持ち込み)

備考：江戸時代後期に建てられた笠島地区にある自炊型の民宿。中庭で BBQ 可能。

笠島地区にある 1 日 1 組貸し切りの宿。



⑥Villa Kasashima en.(古民家・有限会社ロワール商事)

HP あり、Instagram あり ※tomari と kasashima が共同アカウント運用

所在地：【笠島地区】

タイプ：古民家 1 棟貸し

収容人数：4 名まで

料金：(基本)：一棟貸し¥70,000 ※1名で宿泊される場合も一棟貸し料金

オプション：プライベートサウナ：1組1日¥7,700

間取り：床面積/72.71㎡、1F/リビング、土間、キッチン、バスルーム、洗面、トイレ、ベッドルーム

備考：笠島まち並保存地区内の古民家に北欧インテリアを組み合わせてリノベーションした一棟貸宿。落ち着いた雰囲気の中、贅沢な時間を過ごすことができる。



⑦太陽の家(古民家・民泊：合同会社太陽の家*)

*合同会社太陽の家（丸亀市の障害福祉サービス事業所）

HPあり、Instagramなし

所在地：【笠島地区】

タイプ：古民家民泊

収容人数：記載なし

料金：記載なし

備考：笠島地区内にあり、床の間のある書院造の和風建築物。屋根や天井が高く、落ち着いた雰囲気の中庭もあり、夏は縁側で家族そろって団らんしながら過ごせる。自炊設備（無料）、BBQ設備があり、家族やグループで楽しめる。予約はメールにて行う。



【宿泊施設の総括】

総収容人数：約50名前後

古民家活用型：6施設(本島湊圓、Villa Tomari、やかた船、大倉邸、Villa Kasashima en.、太陽の家)

【課題】

- ✓ キャパシティ不足：記載ないが総収容人数50名前後と推測、繁忙期に対応できない可能性あり
- ✓ 予約の取りにくさ：人気施設は繁忙期の土日は満室のことも多い。また予約方法がメールのみ・電話のみ、旅行予約サイトへの登録がないなど、予約方法も限定的
- ✓ 情報の不足：ネット上での宿泊施設情報がバラバラで一覧性がない。また、宿泊料や収容人数といった基本的な事項がネット上で記載されていない場合も多い

(2) 飲食店舗について



※以下、各店舗の写真や情報は、各店舗の Web サイト、島旅ノート、Instagram、その他インターネット情報等から抜粋

①本島スタンド(株式会社スナック運営)

HP あり、Instagram あり

所在地：【泊地区】(本島港から徒歩 3 分)

業態：カフェ・軽食・物販

営業時間：11:30～17:00 定休日：水・木曜日

メニュー

- ・ホットドッグ・フライドポテト・日替わりカレー
- ・週替わり魚定食 ←従前の看板メニュー (現在、提供可否は不詳)
- ・季節のジェラート・バスクチーズケーキ
- ・カールスバーグ生ビール・瀬戸内レモンサワー・瀬戸内レモンハイボール・季節のカクテル・自家製モヒート・シャンディガフ・ナチュラルワイン
- ・コーヒー (hot/ice)・カフェオレ (hot/ice)・紅茶 (hot)・アップルジュース・季節のソーダ
- ・自家製ジンジャーエール

おみやげ…〈原則 3 日前のご予約のみ〉

- ・いりこ山椒
- ・バスクチーズケーキ (ホール)

備考：泊港から徒歩 1 分、本島観光案内所内にあるカフェスタンド。

瀬戸大橋が一望できる開放的な空間で、地元の食材を使用した軽食が楽しめる。

島内外の人を繋ぐ場所として、本島・さかな部や定期イベントも開催。



②久福ブルーイング

HP あり、Instagram あり

所在地：【泊地区】

※JR 丸亀駅北口にて「KYUFUKU BEER STAND」を経営

業態：クラフトビール醸造所・バー

営業時間： 土日祝日 11:30~16:30 定休日：不定休

メニュー

- ・クラフトビール(数種類): 800~1,200 円

備考：島の商店だった建物をリノベーションして開業した本島で醸造するクラフトビールの醸造所。地元食材(果実類、ハーブなど)を活かした小規模醸造ビールを製造。

小規模醸造による多様なラインナップ、季節限定ビール、地元食材活用(本島産の柑橘類等)、工場見学・試飲なども対応可能。



③海を休ませるレストラン(株式会社塩飽 Fisheries)

HP あり、Instagram あり (Instagram: 株式会社塩飽 Fisheries 名義)

運営：株式会社塩飽 Fisheries(当社代表は大石水産代表の大石一仁氏)

所在地：【泊地区】 ※本島の「レストラン」と丸亀港での「出張販売」の営業形態

業態：海鮮レストラン

営業時間：(1)水・木曜日 本島レストラン 11:00~17:00

(2)金・日曜日 本島レストラン 11:00~14:00、丸亀港出張販売 14:45~18:00

メニュー

- ・3種刺身セット 1,000 円、5種刺身セット 2,000 円、握り寿司 6貫セット 700 円
- ・養殖サバの棒寿司 1,500 円 ・その他要望に応じて寿司・オードブルの製造可能

備考：サバ養殖は、地元の若手漁師が運営している「海を休ませる水産商社『塩飽フィッシャリーズ』」の中核事業の一つ。

種苗から育てることで寄生虫アニサキスのリスクを低減し、刺し身など生で食べられるのが特徴。「海

を休ませるレストラン」で、棒ずしなど多彩なメニューに仕立てて提供。サバの名称は「海を休ませるサバ」。

店名の「海を休ませる」には、「乱獲せず、持続可能な漁業を」という大石氏の哲学が込められている。



④キッチンうみ

HP あり、Instagram あり

所在地：【泊地区】

経営＝旧：島の母ちゃん弁当

業態：食堂

営業時間：11:30~14:00 / 16:30~ラスト（夜営業は金・土のみ）

定休日：日曜日、月曜日

メニュー

- ・定食等

備考：家庭的な雰囲気と味を提供するお店



⑤島娘

HP あり、Instagram あり

所在地：【泊地区】 ※本島港から徒歩 1 分

業態：食堂兼弁当店 ※タコ料理に特徴あり

※テイクアウト可能であり島の弁当店として機能

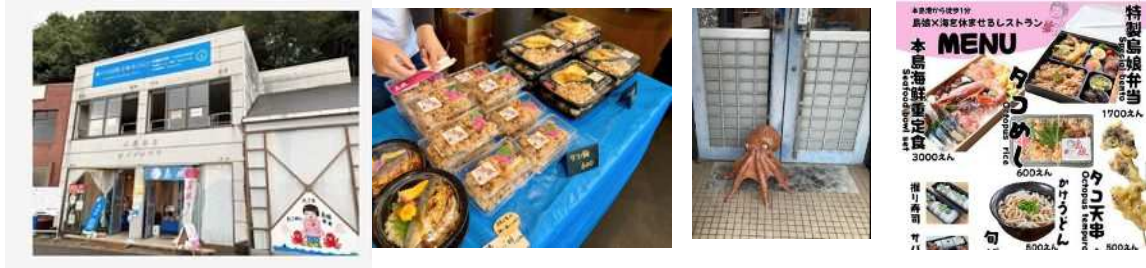
営業時間：8:30~17:00

メニュー

- ・定植、丼もの（鯛カツ丼等）
- ・タコ飯、タコ天（タコの天ぷら）、タコ串、タココロッケ、島娘弁当

備考：本島名物であるタコのメニューが豊富。瀬戸芸来場者等が弁当をテイクアウト。

本島港すぐの立地であり、来島者にとって本島タコの「アイコン」としての側面あり。



⑥軽食・喫茶「太陽の家」(合同会社太陽の家_丸亀市の障害福祉サービス事業所)

HP あり、Instagram なし ※Instagram は「太陽の家」の社会福祉法人のアカウントのみ
所在地：【泊地区】

業態：総菜販売店(総菜イートイン食堂)

営業時間：11:00~14:00 定休日：水、土、日、祝日

メニュー：記載なし

備考：塩飽勤番所前にあり。本島から笠島探訪の際等の休息・昼食の場として活用可能。



⑦島そだち

HP なし、Instagram なし

所在地：【泊地区】※塩飽勤番所近隣

業態：ランチ・軽食・喫茶店

営業時間：9:30~16:00 ※ランチ 11:00~14:00

定休日：不定休

メニュー

- ・煮込みハンバーグ定食、ローストビーフ丼、カレーライス、かけうどん、コーヒー等

備考：自宅の一部を開放して島の女性が一人で営む店舗で、店舗の「お母さん」が特徴。メニューは旬の食材を使った季節ごとになるランチなど。不定休のため、来店の際は事前の確認等の留意が必要。



⑧ごはん&カフェもくれん

HP なし、Instagram あり

所在地：【笠島地区】※塩飽勤番所近隣

業態：ランチ・軽食・喫茶店

営業時間：11:00～16:30 ※ランチ 11:00～15:00

定休日：月曜日、火曜日、水曜日、金曜日

メニュー

・定食、パンランチ、かけランチ、海鮮ちらし、おでん、カレー、ちょい呑みセット 等

備考：木・土・日曜限定で営業する定食屋。民家をリノベーションした、和洋折衷のモダンな空間でゆったりと過ごせる。料理は家庭的な手作り料理を提供、コーヒーだけのカフェ利用も可能。テラスからは、四季折々に変わる景色が楽しめ、春には桜と瀬戸大橋の美しいコラボレーションが楽しめる。事前予約で無料送迎も実施。



⑨茶房伊達

HP なし、Instagram なし

所在地：【笠島地区】※塩飽勤番所近隣

業態：ランチ・軽食・喫茶店

営業時間：6:00～20:00 ※昼休み有り

定休日：不定休 ※事前電話予約が望ましい

メニュー

・定食、カレー、おつまみ類、モーニング 等

備考：店主は京都で割烹料理の修行をした後、本島で開業。営業日や営業時間は不定期的のため留意が必要。

朝はパンとゆで卵、サラダがセットのモーニングが食べられる。平日のランチは、タイ、サワラ、キス、タコ、イカなど島で獲れた旬の魚介や、本島の野菜を使った日替わり定食。刺身やフライなど、その日のメニューを楽しみにしている地元の人も多い。



⑩はらのパン

HP なし、Instagram あり

所在地：【泊地区】

業態：パン店

営業時間：12：00～16：00 ※売り切れ次第終了

定休日：不定休 ※Instagram で確認

メニュー

- ・カレーパン、アンパン、クロッカン、きび砂糖とクルミパン、食パン 等

備考：木鳥神社すぐ傍らの民家の中にある小さなパン屋。厳選した小麦粉・国産バター等・塩等、細部にまでこだわっており、優しい味のパン。



⑪honjima bakery (ホンジマベーカリー)

HP なし、Instagram なし

所在地：【笠島地区】

業態：パン店

営業時間：11：00～15：00 ※L.O14：30 売り切れ次第終了

定休日：月曜日～金曜日 ※土日のみ営業

メニュー

- ・パンドミ、ベーグル各種、焼菓子類 等 ※イトイン可、ドリンクあり

備考：海沿いの空き家の2階をリノベーションして2016年にオープンしたパン屋。週末だけオープン。店内では海を眺めながら焼きたてのパンを食べることができる。

- ・料理学校（ル・コルドン・ブルー）卒業後にパンの修行を積んだ店主は、パンに合わせて酵母や小麦粉を使い分け、県内や瀬戸内、四国産の野菜や果物などの素材を使用してパンを焼いている。「できるだけ焼きたてを食べてもらいたい」という思いから、フェリーの到着時刻に合わせて焼き上げる。定番の食パンからもっちりしたベーグル、旬の果物や野菜がのったトーストなど、多くの種類が並ぶ。



【飲食店の特徴と課題】

【特徴】

- ・小規模(各店 10~20 席程度)
- ・家族経営が多い
- ・地元(島・海)の食材を活用
- ・個性的なメニュー(特にタコ関連)

【課題】

- ・営業日・時間が限定的: 不定休が多く、営業情報が分かりにくい
- ・昼営業のみ: 夜間営業の店舗が少ない(海を休ませるレストラン等、数店のみ)
- ・予約制: 予約必要な店舗も多い
- ・座席数不足: 繁忙期は満席で入店できない可能性あり
- ・情報発信: 一部店舗を除き、リアルタイムの営業情報が得られにくい

【施策の検討】

- ・営業情報の一元化: 全飲食店の営業情報を一覧できるサイト・アプリの構築
- ・営業時間の延長: 夜間営業の店舗を増やす
- ・予約システム: オンライン予約システムの導入
- ・キッチンカー: 繁忙期は、キッチンカーでも軽食を提供

(3) 島内の移動手段

① 【レンタサイクル】

事業者: 本島汽船株式会社(本島港待合所)

料金: 普通自転車: 500 円/日、電動自転車: 1,500 円/日

貸出場所: 本島港(泊地区)待合所

営業時間: 7:00~17:50

台数: 約 50 台 ※予約不可

- ・島内は起伏があるため、電動自転車が推奨される
- ・本島港から笠島地区まで約 2km、電動自転車で約 10 分
- ・返却は当日中(最終便出航前)

【考察等】

- ・レンタサイクルは、本島観光に適している。徒歩では遠すぎて、車では入れない路地であっても、自転車であれば風を感じながら自由に島を巡ることが可能。
- ・ただし、下記の課題もあり。
 - ✓ 台数不足: 繁忙期(瀬戸芸期間、週末)は、午後には借りにくい可能性
 - ✓ 電動自転車の不足: 電動自転車の需要が高いが、台数が限定的
 - ✓ 坂道: 普通自転車では、坂道がきつい場所もあり
 - ✓ 返却時間: 最終便に間に合うよう返却する必要がある、時間に追われる
 - ✓ 天候や環境: 雨天の場合や荷物が多い場合などは利用の障壁となる

【施策の検討】

- ・レンタサイクル(特に電動自転車)の台数増加
- ・複数箇所での貸出・返却を可能にする(笠島地区等)
- ・事前予約システム・アプリ等の導入

②【コミュニティバス】

運行：丸亀市コミュニティバス（本島コミュニティバス） ※琴参バス(株)

[通常時] 1日6便（右回り3便・左回り3便の島内循環路線）

時刻表：本島港発 右回り 7：45、8：35、10：40 発

本島港発 左回り 11：20、12：50、16：07 発

停留所：本島港、木鳥神社、屋釜、笠島港、笠島、新在家、小学校中学校・市民センター等 計25カ所

所要時間：1周 約40分

料金：大人200円/回、小人100円/回、

1日券：大人500円/日、小人250円/日

[瀬戸芸期間中] 1日10便（1方向の折り返し往復路線）

時刻表：本島港発 8：25、9：45、10：15、11：25、11：55、12：40、13：30、14：05、
15：35、16：00

停留所：本島泊港、勤番所、山根、甲生口、笠島、笠島港、笠島北、屋釜浜 計8カ所（折り返し）

所要時間：1周 約40分

料金：大人200円/回、小人100円/回、

1日券：大人500円/日、小人250円/日

[考察等]

- ・コミュニティバスは、主に島民の生活の足として機能しており、観光客にとっては便数が少なく時刻が合わないことが多いため、「観光の足」になりにくい事が課題。
- ・瀬戸芸期間中は、通常便6便+瀬戸芸便10便=16便/日となる

③【徒歩】

主要区間の徒歩所要時間:

- ・本島港 → 塩飽勤番所：徒歩約5分(約400m)
- ・本島港 → 笠島重伝建地区：徒歩約25分(約2km)
- ・笠島地区 → 遠見山展望台：徒歩約40分(約3km、登山道)
- ・笠島地区内の散策：徒歩約30～60分
- ・島内は比較的コンパクトだが、坂道が多い
- ・夏季は暑さ対策が必要(日陰が少ない)
- ・冬季は寒さ対策が必要(風が強い)

[考察等]

- ・徒歩での島巡りは「ゆっくりと島を感じる」最良の方法。ただし、体力的な負担も大きいため、休憩場所(店舗、ベンチ、東屋)やトイレ等を整備していく必要がある。

④【自家用車】

持ち込み

- ・丸亀港ルートは本島汽船のカーフェリーで車両搭載可能

※児島観光港ルートは自転車含む車両搭載不可

- ・料金: 車両サイズにより異なる

バス・乗用車・トラック 片道2,420円～10,310円程度

島内道路

- ・主要道路は舗装済み
- ・笠島地区内は狭い路地が多く、車両の進入困難な路地もあり
- ・対向車とのすれ違いが困難な箇所あり

駐車場

- ・本島港周辺に小規模駐車場あり。台数に限りあり特に繁忙期は注意
- ・笠島地区内は駐車スペース限定的
- ・本島島内にガソリンスタンドなし、事前給油が必須

[考察等]

- ・自家用車の持ち込みは、家族連れや荷物が多い場合には便利だが、以下の課題に留意
 - ✓ カーフェリー料金が高い(往復約 6,000 円)
 - ✓ 島内道路が狭い(特に笠島地区)
 - ✓ 駐車場が少ない
 - ✓ 車では味わえない島の魅力(徒歩・自転車の方が良い)

⑤【タクシー】

現状：島内に常駐タクシーなし

代替手段：事前予約により島外タクシーをカーフェリーで呼ぶことは可能(料金高額)

[施策の検討]

- ・ガイドもつけた観光客向けの「島内周遊タクシー」なども検討できる可能性があるが、観光客のニーズや動向などを踏まえながら検討していく必要がある。

(4) 港について

[本島港：駐車場]

- ・本島港を降りてすぐ右手側（北側）に駐車場有り。(20 台程度?)
- ・本島港を降りてすぐの道沿いに駐輪場有り。

[本島港：待合所]

- ・本島港を降りてすぐ左手側（南側）に待合所有り。建屋内に御手洗いも有り。

(5) その他の整備状況

[ヘリポート]

- ・本島港から道沿いに南西に 1km（車で 3 分）の地点にヘリポート有り。
- ・防災・救急面での利用を主目的としている。

■5.2 アクセス・交通インフラ

(1) 主要空港・駅から本島までのアクセスについて



【広域アクセス:日本各地から本島笠島地区へ】

<p>【羽田空港から】</p> <p>①3時間41分程度 ②4時間33分 ～5時間40分程度</p>	<p>①各交通機関単純合計：3時間41分 羽田空港 →(飛行機/約1時間20分)→ 高松空港 →(リムジンバス/約1時間15分)→ JR丸亀駅 → (徒歩/約6分)→ 丸亀港 →(本島汽船/35分) → 本島港 →(徒歩/約25分)→ 笠島地区</p> <p>②NAVITIME：4時間33分 ～ 5時間40分 程度 ※ルートは同上</p>
<p>【成田空港から】</p> <p>①3時間46分程度 ②-</p>	<p>①各交通機関単純合計：3時間46分 成田空港 →(ジェットスター/約1時間25分)→ 高松空港 →(以下同上)</p> <p>②NAVITIME：- ※ルートは同上</p>
<p>【新大阪駅から】</p> <p>①2時間15分程度 ②2時間17分 ～3時間10分程度</p>	<p>①各交通機関単純合計：2時間15分 JR新大阪駅 →(新幹線/約50分)→ JR岡山駅 →(マリンライナー/約25分)→ JR児島駅 → (徒歩/約5分) → 児島観光港 →(ムクジマルホープ/30分)→ 本島港 → (以下同上)</p> <p>②NAVITIME：2時間17分 ～ 3時間10分 程度 ※ルートは同上</p>

<p>[岡山駅から]</p> <p>①1時間25分程度</p> <p>②1時間42分 ～2時間16分程度</p>	<p>①各交通機関単純合計：1時間25分 JR岡山駅 →(マリンライナー/約25分)→ JR児島駅 →(以下同上)</p> <p>②NAVITIME：1時間42分 ～ 2時間16分 程度 ※ルートは児島～本島を推奨</p>
<p>[高松駅から]</p> <p>①1時間41分程度</p> <p>②2時間01分 ～2時間41分程度</p>	<p>①各交通機関単純合計：1時間41分 JR高松駅 →(普通列車/約35分)→ JR丸亀駅 →(以下同上)</p> <p>②NAVITIME：2時間01分 ～ 2時間41分 程度 ※ルートは同上</p>
<p>[丸亀駅から]</p> <p>①1時間06分程度</p> <p>②1時間16分 ～1時間33分程度</p>	<p>①各交通機関単純合計：1時間06分 JR丸亀駅 →(徒歩/約6分)→ 丸亀港 →(本島汽船/35分)→ 本島港 → (徒歩/約25分)→ 笠島地区</p> <p>②NAVITIME：1時間16分 ～ 1時間33分 程度 ※ルートは同上</p>

※NAVITIMEの所要時間は出発地の出発時刻を全て8：30に設定して算出
前後の便により数分～数時間の差異が発生（接続・乗換時間が主因）

(2) 本島までの周辺アクセスについて



【A：丸亀港ルート】（運航:本島汽船 Tel.0877-22-2782）

航路情報

- ・丸亀港 ⇄ 本島港(泊地区)
- ・1日8往復運航
- ・所要時間:約35分
- ・料金:大人(中学生以上)片道560円、往復1,060円、自転車330円
 小人(小学生以下)片道280円、往復540円
 バス・乗用車・トラック 片道2,420円～10,310円
 750cc以上二輪片道1,270円、750cc未満二輪片道970円、原付640円、自転車330円

丸亀港→本島港(本島汽船)

出発	到着	備考
6:10	6:45	
7:40	8:15	
10:40	11:15	
12:10	12:30	車両不可
15:30	16:05	
16:30	16:50	車両不可
18:15	18:35	車両不可
20:00	20:20	車両不可

本島港→丸亀港(本島汽船)

出発	到着	備考
6:50	7:20	
8:30	8:50	車両不可
9:40	10:10	
12:35	13:05	
14:15	14:35	車両不可
17:10	17:40	
17:50	18:10	車両不可
19:30	19:50	車両不可

乗船料金

	片道	往復
大人 (中学生以上)	560円	1,070円
小人 (小学生)	280円	540円

二輪料金

	片道	備考
自転車	330円	-
原付	640円	-
750未満の 二輪	970円	-
750以上の 二輪	1,270円	-

バス・乗用車・トラック(一部掲載)

車両長さ	片道	備考
3m未満	2,420円	運転手1名含む
4m～5m 未満	4,430円	運転手1名含む
11m～12m 未満	10,310円	運転手1名含む
以降+1mごと	740円	-

丸亀港へのアクセス:

- ・JR丸亀駅から徒歩約6分(約500m)
- ・駐車場:丸亀港周辺に有料駐車場あり(1日500～1,000円)

【B：児島観光港ルート】（運航:六口丸海運 Tel.086-474-6199）

航路情報

- ・児島観光港 ⇄ 本島港(泊地区)
- ・1日6往復運航
- ・所要時間:約30分
- ・料金:大人片道650円、往復1,230円 子供片道320円、往復610円
- ・自転車・自動車航送不可

●児島港ルート

児島港→本島港（ムクジマルホープ）

出発	到着	備考
6:25	6:55	
9:30	10:00	
11:10	11:40	臨時便のみ
13:30	14:00	臨時便のみ
16:00	16:30	
18:30	19:00	

本島港→児島港（ムクジマルホープ）

出発	到着	備考
7:00	7:30	
10:05	10:35	
11:45	12:15	臨時便のみ
14:05	14:35	臨時便のみ
16:45	17:15	
19:10	19:40	

※全便車両不可

※臨時便：瀬戸内国際芸術祭（秋会期中）と20日が土日祝の場合のみ運航

乗船料金

	片道	往復
大人	650円	1,230円
小人	320円	610円

児島観光港へのアクセス:

- ・JR 児島駅からバス約 15 分(下電バス「児島観光港行き」)
- ・駐車場:児島観光港に無料駐車場あり

[考察等]

- ・乗船時間は丸亀ルート約 35 分、児島ルート約 30 分間。
潮風を感じ、瀬戸内海の多島美を眺める時間が、日常から非日常への「切り替えスイッチ」となり得る。
- ・しかし、現状は下記の課題もあり。
 - ✓ 便数の少なさ： 1 日 6～8 便では、滞在時間が制約される
 - ✓ 最終便の早さ：丸亀港行 19:30 発、児島観光港行 19:10 発では、夜の島を楽しめない
 - ✓ 予約不可： 繁忙期は乗船できないリスク
 - ✓ 現金決済：車両積載時の料金も含め、現金決済となる
 - ✓ 天候リスク：荒天時は欠航

■5.3 情報発信・プロモーション

(1) 観光案内所

- ・丸亀市観光協会 (<https://www.love-marugame.jp/office>)
- ・丸亀市観光案内所 (JR 丸亀駅 構内)
- ・丸亀場内観光案内所 (丸亀城内お土産ショップ)

(2) 情報発信の状況

- ・丸亀市公式 Web サイト (<https://www.city.marugame.lg.jp/soshiki/40/>)
- ・丸亀市観光協会 公式 Instagram (https://www.instagram.com/marugame_kankou/)
- ・丸亀市観光協会 公式 X (<https://x.com/marugamekannkou>)
- ・まるがめせとうち島旅ノート (<https://www.marugame-happy-life.jp/islands/>)
- ・瀬戸内国際芸術祭のガイドブック
- ・瀬戸内国際芸術祭の公式 Web サイト (<https://setouchi-artfest.jp/place/honjima/>)
- ・塩飽本島の Web サイト (<https://shiwaku-honjima.jp/>)
- ・本島町笠島まち並保存協会の Web サイト (<http://www.pikara.ne.jp/honjima/>) ※非 SSL 化

(3) その他情報発信場所

- ・本島港（丸亀市）
- ・児島観光港（倉敷市児島）

■5.4 受入体制・回遊性の課題整理

[受入体制]

以下のような課題があり、来島者の滞在価値向上や消費拡大に向けた整備状況は不十分である。

- ✓ 飲食店等、島内で滞在、消費できる場所が限られており、曜日や時間帯によっては利用できる店舗がさらに制限される。
- ✓ また全体的に店舗情報や開店日、開店時間等の情報発信が不十分な傾向がある。
- ✓ 観光客の島内の移動方法についてはレンタルサイクルが主な移動手段として想定されるが、イベント時や雨天時、荷物が重い時など、利用の便が悪い時もある。

[回遊性]

アクセスや回遊性についての課題は以下の通り。

- ✓ 乗船というアクセス上の手間に加え、本島港までの便数が限られており、来島する上での心理的ハードルと、来島すれば長時間拘束されるという時間的ハードルがある。
- ✓ 基本の導線として本島港⇄丸亀港、児島観光港で、他の島とのアクセスは基本無く（牛島除く）、観光としての回遊性は高くない。
- ✓ 車が無い場合、本島の主観光地である笠島までの移動手段が限られるが、車で行く場合、往復 5,000 円～20,000 円程度の料金が必要であり、乗船コストが高い。

6. 持続可能性・地域活性化に向けた取組

■6.1 持続可能性・地域活性化に向けた取組

本島では複数の団体が町並みの保存や活用、地域活性化に向けて取り組みをしている。

現状、以下のような団体等が活動を行っている。NPO 法人や一般社団法人が現地で中心的な役割を担いながら地域の持続発展に向けた取組を行っている他、地元漁師を中心とした地域活性化の取組や、香川大学との連携による空き家改修など、民間等との連携した取組も出ている。

笠島地区は特に古民家の維持・保存の必要があり、人口減少が続く可能性が高い今後については、建物をどのように活用し保存していくかが重要な観点となる。

地域一体となった取組を行っていく上で、地域の目指すべき方向性を定め、民間含めた地域のステークホルダーとの連携を強化していくことが求められる。

【NPO 法人 本島笠島まち並保存協力会】（会長：三宅邦夫氏）

NPO 法人として、行政だけでは難しい現地でのきめ細かな保存活用活動を主体的に行っている。

昨今では会員の高齢化が課題となっている。

[主な活動]

- ・ 景観・環境保全：町並みの清掃、草刈り、側溝の整備など
- ・ 文化財管理：指定管理者として、以下の3物件を管理
 - 眞木邸(さなぎてい/笠島まち並保存センター)：観光案内拠点
 - 旧眞木邸(まきてい/ふれあいの館)：休憩所、イベントスペース
 - 藤井邸(ふじいてい/文書館)：古文書の保存・展示
- ・ ガイドツアー：三宅代表によるガイドツアーの実施(要予約)
- ・ イベント開催：町並み散策イベント、瀬戸芸コラボ、重伝建選定40周年イベント（太鼓台、伊勢大神楽）
- ・ 情報発信：HP「本島町笠島まち並保存協力会」等での情報発信

【一般社団法人 笠島まち並保存活用会】（代表理事：三宅邦夫氏）

空き家物件の確保・維持管理、古民家の利活用促進を目的に活動。

人口減少・高齢化により維持管理できない空き家が増え、将来的な倒壊の危険や景観の悪化を防いでいく必要がある。

空き家を「価値のあるもの」として有効に活用していくことが重要な観点となってくる。

[主な活動]

- ・ 本島での空き家バンクの運営：HP「丸亀市塩飽本島町笠島」で空き家情報を発信
2026年1月現在、6件掲載中、うち5件成約済、うち1件活用者募集中
- ・ 物件の維持管理：空き家の清掃等
- ・ 利活用の仲介：移住希望者、事業者とのマッチング、空き家内覧会の実施

【本島さかな部】（代表：大石一仁氏）

「本島さかな部」(Instagram フォロワー2,119人)は、20代を中心とした現役漁師による島おこし団体。代表の大石氏を中心に、イベントなどを通じ、魚食文化の継承と島の魅力発信に取り組んでいる。

[主な活動]

- ・ 子ども部員制度：子どもたちを「部員」として、魚食文化を伝承
- ・ 本島サワラ祭り：毎年春頃に開催されるイベント（2025年で3回目の開催）
- ・ 魚さばき体験：子どもたちに魚のさばき方を教える体験プログラム
- ・ トークショー：丸亀市内や岡山県で、漁業の魅力を語るイベント開催
- ・ 料理販売：地元イベントでの魚料理の販売

【香川大学 KASASHIMA STUDIO（笠島スタジオ）】

香川大学の創造工学部の研究室が、建築教育（実績的な建築技術の習得）、地域貢献（空き家の再生）、交流促進（学生と地域住民の交流）などを目的に、笠島地区の空き家の改修プロジェクトを実施。

[プロジェクト概要]

主体：香川大学創造工学部 釜床美也准教授 研究室

参加者：学生・院生有志 15名

プロジェクト：丸亀市提案型協働事業として採択

活動内容：笠島地区の「豊島邸」（空き家）の改修プロジェクト。学生たちが実際に現地に滞在し、

地域住民と協力しながら、古民家を改修。瀬戸芸 2025 の秋会期（10/3～11/9）に一般公開

[大学との連携メリット]

- ✓ 若い力：学生の体力と情熱が、改修作業を進める
- ✓ 新しい視点：学生の自由な発想が、新たな活用方法を生む
- ✓ 広報効果：大学のネットワークを通じて本島の情報が拡散できる

【丸亀市伝統的建造物群保存地区保存審議会】

目的：「保存活用計画」の策定

[委員構成]

- ・ 学識経験者（建築史、都市計画、観光等）
- ・ 地域関係者（NPO、自治会、商工会等）
- ・ 金融機関（中讃地区母店＝百十四銀行丸亀支店）
- ・ 観光協会
- ・ 行政（丸亀市文化財保存活用課）

7. 総括・今後の方向性

■7.1 現状分析のまとめ

[現状]

本島においては足元の人口が約 230 人と非常に少なく、また今後も人口は減少していくことが見込まれる。そのような中、NPO 法人による笠島地区の空き家活用のマッチングや、新たに本島で事業を開始する民間事業者も一定存在するなど、本島の活性化に前向きな意向を示す動きも見えている。

[本島の強み/特徴]

本島は塩飽諸島の中心的存在であり、塩飽の歴史や文化、それらからくる歴史的な町並みなど、本島ならではの特有のストーリーを持っており、これらは他の地域との差別化が図れるものである。

また離島ならではの穏やかで自然豊かな景観や雰囲気は、訪れる観光客を癒し、来島者の滞在価値向上に繋げることができる。

本島は外国人も多く参加する瀬戸内国際芸術祭の会場の一つにもなっており、島内には会期中以外にも見ることのできるアート作品がある。瀬戸内国際芸術祭 2025 では、本島会場には秋会期（38 日間）のみながら約 2.6 万人の来場があるなど、3 年に 1 度の瀬戸内国際芸術祭会期中は本島の入込数が大幅に増加する傾向がある。

[課題]

2024 年（瀬戸内国際芸術祭の非開催年度）の本島の島民を除いた入込数は年間約 3.9 万人/程度と推定するが、これには観光目的以外の入込数も含まれている。純粋な観光需要については本島パークセンターや塩飽勤番所跡の入込数が年間 3 千人～4 千人程度であることを踏まえると、歴史資源などを観光資源として編集・活用し、本島への入込数を“観光客化”させられていない可能性がある。

（但し、島内の受入体制整備に関し飲食店等の需要を推定する場合においては、島民を除いた入込数（約 3.9 万人/年）を参考にすることができる。）

[受入体制面]

受入体制面では、島内には飲食店やアクティビティ、土産物売り場などの滞在・消費できる場所が少なく、来島者の付加価値向上や体験価値向上に寄与する受入体制の確保に課題がある。

また観光客が利用できる島内の移動手段はレンタルサイクルやコミュニティバスに限られており、雨の日やイベントなどの来島者集中時には移動手段の選択肢の少なさが課題となっている。

[アクセス面]

本島へのアクセス面では、本島には丸亀（丸亀港）・児島（児島観光港）から渡ることができ、港の最寄駅へは高松駅や岡山駅からのアクセスは悪くないものの、離島という性質上、主要地からのトランジット回数は多くなっている。加えて、船の便数や移動時間等を考慮すると 1 日の拘束時間は長くなるため、来島に伴う心理的ハードルは高くなりやすい傾向がある。そのため、島内での滞在時間伸長に向けた体制整備や、他の島々と航路を繋げる等、観光客の滞在価値向上や周遊性の改善を図るなどにより、少しでも来島者の心理的ハードルを取り除いていくような施策が必要である。

<本島における SWOT 分析>

内部環境	強み	<ol style="list-style-type: none"> 1 塩飽水軍の歴史や領知を与えられていたことなど、特有のストーリーを持っている 2 笠島地区や塩飽勤番所跡、日本遺産の構成材など、塩飽の歴史や文化に触れることができる場所がある 3 瀬戸内国際芸術祭の会場の一つであり、会期中以外にも見ることができるアートがある 4 快水浴場百選に選ばれた海岸など、離島ならではの自然（海・山）と穏やかに流れる時間を感じることができる 5 瀬戸内海を挟んで瀬戸大橋を間近に眺められるような眺望の良いスポットがある 6 "船で渡る"という瀬戸内ならではの非日常の体験ができる 7 沿岸部が多く、島内の主要なエリアには港がある
	弱み	<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史、アート、自然等のコンテンツはあるものの、島のコンセプトなどが一本化しておらず観光価値として活かされていない 2 人口は現在約230名程度、かつ年々減少傾向であり、島民が割ける人的リソースは少ない 3 本島島内の事業者は少なく、飲食店や宿泊施設、土産物売場等が限られており、観光客が滞在・消費できる場所が少ない 4 笠島地区には徒歩で30分程度かかるが、その他移動手段はレンタルサイクルとコミュニティバスのみで、繁忙日は利用できない可能性もある 5 本島までのダイヤや往復時間等を踏まえると、1日の拘束時間は長くなる 6 瀬戸内海の多島美を活かした航路など、牛島を除いた島々を巡る航路はない 7 車の乗車運賃含む乗船料は、現金決済のみ（事前のWeb決済も無し） 8 笠島など伝統的な建物は保存、維持費が相応にかかり、また建造物群や景観の保護の観点によるエリア開発の制限等もある 9 本島における観光需要を直接的に推定できる統計指標等、観光関連データは少なく、現状エビデンスに基づいた施策が難しい
外部環境	機会	<ol style="list-style-type: none"> 1 人口減少が続く中、地域資源を活かして交流人口・関係人口の拡大が可能な観光産業は、地方活性化の解決策として注目されている 2 2025年の訪日客数は4,200万人を超え、全国的にもインバウンドは増加傾向にある（足元の中国や中東の情勢は考慮せず） 3 瀬戸内国際芸術祭は世界的にも注目されている芸術祭であり、国内のみならず海外からも観光客が多く訪れる 4 塩飽諸島を始め、瀬戸内には中小含む島々が多く、瀬戸内の多島美は世界的にも珍しい地域である 5 本島行の港がある丸亀・児島の最寄り駅は、高松駅・岡山駅とのアクセスは悪くない 6 丸亀市内には関東や中部、近畿などの遠方からも観光客が訪れているため、うまく導線を作ることができれば観光客を取り込むことができる 7 本島に魅力を感じ、本島で事業を始めたり活性化に取り組む意向のある民間事業者が一定数存在する 8 昨今はSNSやGoogleマップの口コミ等による情報収集が広がっており、うまく活用すれば効果的な情報発信を行える
	脅威	<ol style="list-style-type: none"> 1 今後も人口減少が続く可能性が高く、オーバーツーリズムや持続的な観光地作りが難しくなる可能性がある 2 本島の資源の活かし方について戦略的な施策や方針が無ければ、個々の資源が点在、地域価値が分散し、最大化されない恐れがある 3 中国との関係性悪化や中東情勢など、足元の海外情勢には不安な面もある 4 本島は離島であり、航路事業者が撤退or便数の削減等を行えば、アクセスがより不便になる 5 瀬戸内海は比較的穏やかなものの、台風や悪天候などによる運休があれば移動ができない可能性がある 6 昨今はSNSやGoogleマップの口コミ等による情報収集が広がっており、来島客が不満を感じれば、ネガティブ情報が拡散されやすい

■7.2 今後の活用可能性に係る示唆

今後、民間事業者の本島への参入を促し、地域一体となって笠島地域の保存と活用をしていくための方向性の検討を検討していくに際して、本島の持つ資源や特徴、本島を取り巻く環境等を十分に踏まえて、検討していく必要がある。その際、本島の現状や限られたリソースも勘案した上で、持続的な地域づくりができるよう、配慮しなければならない。

[方向性の示唆]

観光地としての活用の方向性として、①一本化した強いコンセプトをつくり、②そのコンセプトの上に現在点在する観光資源（歴史、文化、アート、自然等）をのせ、③コンセプトに沿ったかたちで受入体制を整備していくことで、点在する観光資源を上手く活用できるのではないかと考える。

但し、限られたリソースを考慮する必要があるため、整備エリアを絞ることや、人的リソースを多く要しない方法（ex.観光客自らに展示しているアートを鑑賞してもらったり、観光客自らがフォトジェニックな写真を撮れる環境を整備する等）、地域のステークホルダーが同じ価値観のもとに環境を整備していくこと（ex.各々がバラバラな用途で古民家を使うことで地域としてのコンセプトやブランドイメージが一体化しない）、などの観点は重要である。

現状のデスクトップ調査から見えている範囲では以下のような方向性で考えていくことで、地域の魅力向上が図れ、ひいては民間事業者の参入を促せるような方向性を作ることができるのではないかと考える。

<可能性のある方向性の例>

塩飽特有の強みである歴史等をコアな価値観に設定し、アートや自然をその価値観を支えるコンセプトに反映させることで、来島者の裾野を広げるとともに、来島時の体験価値向上を底上げしていく仕組みを作る。

受入体制の整備面では、例えば本島港から主要な観光資源である笠島地区までの道中を、アート資源や自然資源を織り交ぜながらコンセプトに繋がる内容で環境を整備していくことで、「単純な移動としての道のり」に価値を持たせ、「そこでしか味わえない価値ある体験」に変えていく（ex.本島港に到着してから、コンセプトに沿ったストーリーを展開し、コアな価値で来島の目的地となる笠島地区までの道のりをコンセプトやストーリーを想起できるようなアートや自然資源を用いて整備し、笠島地区までの道中をストーリーのプロローグとして来島者に体験させていく）。

Ex.コアになる提供価値 : 「塩飽の歴史やストーリー」

コンセプトを支える要素 : 「アート」「離島ならではの自然や雰囲気」

整備エリア : 本島港がある泊エリア ~ 笠島エリア（両エリアとその導線エリア）

また周遊性の課題に関しては、他の島との連携を中心に、丸亀市本土との連携等も含め連携を図っていくことで、来島者の体験価値向上に向けた取組を検討していく（他の島との航路を作ることで、来島者の周遊性を向上させ、本島への来島障壁を除去していく）。

<p>地域一体となった笠島地域の保存・活用のための方向性の検討</p> <p>※現段階において可能性が考えられる方向性</p>	<p>< Opportunity ></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 訪日外国人は増加傾向にある ✓ 瀬戸芸は世界的にも注目されている ✓ 本島の最寄り港まで、高松駅や岡山駅からのアクセスは悪くない ✓ 市内には遠方からも観光客が来ている ✓ 本島で事業を始める事業者は一定数存在 ✓ SNS等による情報発信力は高まっている 	<p>< Threat ></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口が減少し、オーバーツーリズムや持続的な観光地づくりが課題となる ✓ 戦略的な方針や施策が無ければ、地域価値が分散し最大化されない恐れがある ✓ 航路事業者が撤退/便数削減等を行えば、アクセスがより不便になる ✓ UX(顧客体験価値)に不満があればSNS等でネガティブ情報が拡散されやすい
<p>< Strength ></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 塩飽の歴史など特有のストーリーがある ✓ 笠島地区や塩飽勤番所跡、日本遺産など歴史や文化を感じられる場所がある ✓ 瀬戸芸のアートがある ✓ 眺望スポットがある ✓ 離島ならではの自然と雰囲気がある ✓ 主要なエリアには港がある 	<p>Strength × Opportunity</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ インバウンド含む観光客に塩飽の歴史や文化、瀬戸内や自然をより訴求できるような体制を整備する ◆ 歴史やアート等の強みフックに、丸亀市内や、高松・岡山からの導線を強化し観光客を取り込む 	<p>Strength × Threat</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 歴史、アート、自然などの強みを活かして一本化したコンセプトを作り、資源を価値化していく
<p>< Weakness ></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ コンセプトが一本化されておらず、コンテンツが観光価値として活かしていない ✓ 人口少なく島内の人的リソースは限定的 ✓ 観光客が滞在・消費できる場が少ない ✓ 島内の移動手段がレンタルサイクルなどに限られている ✓ 瀬戸内海の多島美を活かしたアイランドホッピングできる航路等はない 	<p>Weakness × Opportunity</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 民間と連携し受入体制を強化する ◆ 本島港から小型船で直接笠島に移動する導線をつくる ◆ 他島との航路を開拓するなどにより多島美を感じられる導線を作る 	<p>Weakness × Threat</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 島内の移動笠島までの導線を、歴史や自然、アート等をより感じる行程に強化していく ◆ SNS等による来島者のネガティブ情報を収集し対策を検討していく